

葉山町教育委員会第2回臨時会会議録

- 1 開会年月日 令和元年8月5日(月)
- 2 開会場所 保育園・教育総合センター 研修室・会議室1
- 3 出席委員 教育長 返町和久
教育長職務代理者 鈴木伸久
委員 遠藤麻衣子
委員 小峰みち子
委員 水沢 勉
- 4 出席職員 教育部長 沼田茂昭
学校教育課長兼教育研究所長 濱名恵美子
学校教育課指導主事 梶浦いづみ、杉田大樹、大黒貴文
- 5 議長 教育長 返町和久
- 6 書記 教育部長 沼田茂昭
- 7 開会 午前9時30分

(開会宣言)

教 育 長) ただいまから葉山町教育委員会第2回臨時会を開会いたします。

本会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定による定足数に達しております。有効に成立しております。

時刻は9時30分です。

本日の定例会につきましては、傍聴人が14名いらっしゃることをご報告いたします。傍聴人の方をお願いいたします。携帯電話等の電源をお切りくださるよう、お願いいたします。

では、本日の日程を確認いたします。お手元の次第をごらんください。日程第1議案第11号「令和2年度使用小学校教科用図書の採択について」となっております。会議次第について、ご異議ございませんでしょうか。

委員全員) 異議なし。

教 育 長) ご異議なしと認めます。

では、会議録作成上の都合上、質疑の際は挙手をお願いいたします。委員の氏名を指名した後、発言をお願いいたします。また、質疑をされるときには、何についての質問であるか、明確にお願いをしたいと思います。

(議案第11号)

教 育 長) それでは、これから日程第1、議案第11号「令和2年度使用小学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

事務局に対して説明を求めます。部長、お願いします。沼田教育部長。

教育部長) 議案第 11 号「令和 2 年度使用小学校教科用図書の採択について」

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条第 1 項の規定に基づき、小学校教科用図書を採択する。

(別紙)

令和元年 8 月 5 日提出

葉山町教育委員会
教育長 返町和久

提案理由

令和 2 年度使用小学校教科用図書を採択する必要がある、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第 2 条第 1 項第 15 号の規定により提案するものです。

教育長) この件についての補足があればお願いします。

学校教育課長) ただいまの議題につきまして、部長よりご説明申し上げましたが、さらにこれまでの経過等につきまして、ご報告をさせていただきます。

まず、小・中学校で使用する教科用図書につきましては、教育基本法第 1 条教育の目的、同第 2 条教育の目標及び学校教育法第 21 条義務教育の目標に適合するものの中から、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、葉山町教育委員会が採択するものでございます。これに伴いまして、今年度の 4 月 17 日に開催いたしました定例教育委員会において、葉山町立小・中学校の教科用図書の採択方針及び葉山町教科用図書採択検討委員会の設置及び運営に関する要綱を承認し、これに基づき採択事務を行ってまいりました。ここで採択方針を読み上げまして、再度確認をさせていただきたいと思っております。

葉山町立小・中学校使用教科用図書の採択方針

葉山町教育委員会

葉山町教育委員会は、次の事項に留意し、総合的な判断のもとに小・中学校使用教科用図書の採択を行う。

(1) 教科用図書の採択に当たっての留意事項について。

1、採択は静謐な環境において、採択権者が自らの責任と権限において、適正かつ公正に行う。

2、実際の採択に当たっては、必要な期間を設置し、対象となる教科用図書については十分な調査・研究及び検討を行う。

3、児童・生徒及び地域等の実情を十分に考慮する。

(2) 教科用図書の調査・研究について

1、葉山町教育委員会は、公正かつ適切な資料作成を行うため、逗子市教育委員会及び三浦市教育委員会と協力をする。

2、調査・研究は、学習指導要領の各教科の目標及び神奈川県教育委員会の示す観点等を踏まえるとともに、児童・生徒及び地域等の実情を考慮して行う。

以上、採択方針を確認させていただきました。

次に、令和2年度使用小・中学校教科用図書の採択については、平成31年3月29日付文部科学省通知「2020年度（新元号2年度）使用教科書の採択事務について」を受けて、採択業務を行うこととなります。中学校教科用図書の採択につきましては、「特別の教科 道徳」以外の教科書について、新たに採択を行うこと。また、小学校教科用図書の採択については、全ての教科書採択を行うことになっております。この通知を受けて、中学校教科用図書については、平成30年度検定において、新たな図書の申請がなく、基本的には前回の平成26年度検定合格図書等の中から採択を行うことになるため、7月24日（水曜日）に開催した葉山町教育委員会7月定例会において、平成30年度と同一の教科書を採択いたしました。小学校教科用図書につきましては、本日の葉山町教育委員会第2回臨時会においてご審議をいただきます。

次に、令和2年度使用小学校教科用図書の採択につきまして、本日に至るまでの経緯についてご説明をさせていただきます。今年度の5月23日（木曜日）の13時30分より、第1回葉山町教科用図書採択検討委員会を開催いたしました。内容としては、要綱の確認、委員の委嘱、委員長の選出、2市1町合同研究委員会への資料作成依頼等を議題といたしました。なお、委員6名中保護者代表は2名でございます。

6月7日（金曜日）の14時30分より、三浦市初声市民センターにおきまして、2市1町合同研究委員会を、また同日15時30分より2市1町合同調査委員会を開催いたしました。この研究委員会、並びに調査委員会において、神奈川県教育委員会の義務教育諸学校使用教科用図書採択方針に基づき定められた、調査・研究の観点による資料作成を委員並びに調査員に依頼をいたしました。この合同調査期間については、この日より7月9日までとなっております。この中で、県教科用図書選定審議会の答申を受けて作成された調査研究の結果も参考としております。また、土・日を除く6月14日より6月27日までの期間、当町まなびの広場において教科用図書展示会を開催いたしました。

7月23日（火曜日）午前9時から第2回葉山町教科用図書採択検討委員会を開催いたしました。そこでは、調査員からの報告及び調査・研究資料を参考に、教育委員会での採択のための候補を選定いたしました。そして、本日8月5日（月曜日）、臨時教育委員会の開催に至っております。説明は以上でございます。

教 育 長） ただいま、議題にかかわる説明及び経緯にかかわる補足説明がありました。ご質問等ございますでしょうか。

委員全員） なし。

教 育 長) では、なしと認めます。それでは、小学校で使用する教科用図書について、これから審議をしてみたいと思います。進め方は以下のとおりです。初めに、事務局から検討委員会の調査結果及び協議結果について説明を受けたいと思います。それを受けて、私たち委員で意見を出し合い、合議制で決定したいと思います。なお、検討委員会による候補を参考としますが、審議に当たっては原則として全ての教科書会社を対象にしていきたいと思います。

最後に、採択の決定方法につきまして確認をします。決定は、出席委員の過半数以上の推薦があることといたします。過半数に達する推薦が出なかった場合については、候補を2社に絞って改めて審議をし、決定をいたします。この決定方法について、ご異議ございませんでしょうか。

委 員 全 員) 異議なし。

教 育 長) 異議なしと認めます。

それでは、早速、審議に入ります。最初に国語から始めます。なお、意見を述べられる場合には、簡潔明瞭をお願いをいたします。それでは、まず検討委員会の調査結果及び協議結果について、事務局より説明をお願いします。

学校教育課指導主事) 葉山町教科用図書採択検討委員会による調査結果、並びに調査結果に基づいて各教科用図書会社の際立った特徴などについてご説明いたします。

第2回葉山町教科書採択検討委員会では、初めに各教科の調査員から2市1町合同調査委員会の調査結果の報告を受け、その後、事務局より教育研究会の調査結果報告及び教科書展示会における地域・保護者によるアンケート結果の説明をいたしました。なお、調査員の調査は、それぞれの教科の内容を専門的な視点で調査をすること、教育研究会の調査結果は、町内小学校の教職員の意見を広く集めること、そして教科書展示会では、保護者や地域のご意見をいただくために行いました。保護者や地域の方からは、国語や算数、外国語の教科用図書についてご意見をいただきました。これらの意見を十分参照した上で、何を学ぶかだけでなく、それぞれの教科書を使ってどのように学ぶか、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点は見られるか、今日的な課題をどのように取り上げているか、さらには体裁や分量はどうかなどの視点をもって協議を行いました。

これより、葉山町教科用図書採択検討委員会として協議した内容の概要を、各教科ごとにご説明したいと思いますので、よろしく願いいたします。なお、会社名は一部省略して申し上げます。

まずは国語です。各社共通して、どの教科書も新学習指導要領に準拠している。1年生では国語の教科書との出会いを大切にしつつ、生活科との関連が強く意図されている。ユニバーサルデザインや特別支援教育の視点に立った配慮がなされている。

次に、各社の特徴です。東京書籍。身につけたい力を言葉の力として単元冒頭と

単元末に示されている。つかむ・取り組む・振り返るの3ステップで言葉の力を身につけようとしている。6年間を通して500冊以上の本が紹介され、児童の読書意欲を高める工夫がされている。

学校図書。主体的・対話的で深い学びとなるように、巻頭・巻末に学習活動を一覽で提示し、見通しを持てるよう配慮している。色使いを極力抑え、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成されている。

教育出版。主体的・対話的で深い学びとなるように、単元のとびらを主要な単元に設定し、学習過程を明確にしている。伝統や文化に関する内容について強調されている。メディアクリエイターが監修した新しいスタイルの教材を取り入れている。

光村図書。読むことの教材で単元とびらが新設され、そこに指導事項と言語活動、既習内容を掲載し、学習の見通しを持たせている。捉えよう・深めよう・まとめよう・広げようの4つの過程が見開きページで示され、その過程に沿って学習が進められるように工夫されている。言葉の宝箱があり、考えや気持ちを伝える言葉が約500語示され、語彙力と思考力を高めることができる。

以上、4社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補が東京書籍、第2候補が光村図書です。東京書籍は、つかむ・取り組む・振り返るの3ステップ構成で言葉の力を身につけようとしている点が評価されており、新学習指導要領のコンセプトに合致している点も評価されています。

光村図書は、代々受け継がれている名作がある点や、葉山町で長年にわたり使用されており、教材研究の蓄積がある点、さらには印刷の美しい点などが評価されています。以上です。

教 育 長) ただいまの説明にご質問ございますでしょうか。よろしいですか。

今の確認ですけれども、第1候補が東書、第2候補が光村ということでございます。それでは、意見の交換に入りたいと思います。申し出がなければ、遠藤委員から反時計回りに順次意見表明を受ける。その後、質疑をして意見交換をするという形で進めていきたいと思います。遠藤委員、お願いします。

遠 藤 委 員) 東京書籍と光村図書、いずれも甲乙つけがたいですが、光村を推したいと思います。東京書籍、今の視点もそうですけれども、どの教科も聞く・読むことに加えて、仲間と話し合い発表するという、生徒をいかに参加させるかという仕掛けがたくさんあったかと思います。今回、特に6年生後半の卒業という大きな節目を大切にする題材が魅力でした。行事や節目を大切に過ごすことが、中学につながると思い、この教科書を使う授業を見たいと思いました。光村の魅力は、やはり多岐にわたるすばらしい題材。そして、その質のよさかと思います。授業視察でもさまざまな手法で教材研究が進んでいるのを目にします。題材や発問の質のよさはそれぞれ高いレベルかと思いますので、今回は、より高い題材研究を期待しまして、現行の光村を推したいと思います。以上です。

教 育 長) 次に小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私も光村図書を推したいと思いました。まず、理由の1つは、単元の後ろについている学習というのが、光村では捉えよう・深めよう・まとめよう・広げようの発問が、考えを深める方法を促すものになっているなど感じていることです。例えば、第1候補に上っていた東書と光村と同じ教材「ごんぎつね」で比べてみますと、光村図書では「情景や場面の様子が目に浮かぶような表現を見つけましょう。その表現からどのようなことがわかりますか。」という質問になっているのに対して、東書では、「兵十のおっかあの葬式が描かれているところを読むと、どのような感じがしますか。」とあって、東書のほうはかなりポイントを絞った問いになっているということを感じます。全てがそうではないんですけども、おおむね、光村図書と東京書籍との違いは、そういうところにあるかなということを感じておりますので、私は光村図書の問いのほうが、学習を進める上ではいい問いになっているかなということが、まず1点です。

それから理由の2つ目は、光村図書の6年生に森絵都さんの書下ろしだと思うんですけど「帰り道」という文が載っていて、同じ場面を2人の男の子の視点から書かれている。とってもおもしろい、大変興味深い教材になっています。こうした教材文などから、押しなべて質の高いものが光村図書では採用されているなどということを感じます。一方、東京書籍も言葉の力を身につけるという点で、そういうところを大事にしている。言葉ということを強調している点は評価できますし、巻末の、その学年で習った漢字がとても丁寧に記載されているのもよいと思いましたけれども、先に挙げました、発問がいいということ、それから、洗練された教材がそろっているという点で、私は光村図書を推したいと思います。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私は東書を推したいというふうに思います。光村の教科書というのは、大変、完成度が高いものです。見る上でも読む上でも、非常に魅力があって使いやすい教科書だろうと総合的に評価できると思いました。それと比べたときに、東書の性格がはっきりするのですけれども、東書はレイアウトも非常にゆったりとしていて、ページ全体が白く感じられるほどゆったり組んでるんですね。ということは、何か読んだ人間、それを教える人間、ここに言葉を盛り込もうというような、あるそれぞれの思考を促そうとする姿勢が感じられる魅力がある。それは、ちょっとあまり過剰にいろんな情報がある生活を我々はしている中で、言葉の根本的な力みたいな、表現みたいなもの考えるきっかけとしての教科書としての、あるインパクトを持っているというのが東書を評価する理由です。

僕らの言葉は、縦組みから今、横組みに移ろうとしていて、PC やタブレットなど端末で見ている日本語はほとんど横組みであるという世界に今、移ろうとしていると思うのですが、東書にはそういうことにも多少配慮があってですね、イン

ターネットで意見表明するときに、どんな文章を書くと言葉が伝わるかというような事例が入っていて、とても新鮮な取り組みであると思います。そういうところの可能性を評価して東書のほうを選びました。以上です。

教 育 長) ありがとうございます。鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 私もこの東書と光村、迷った部分があったんですけども、あまり長く同じものを使わないほうがいいんじゃないかという部分と、やはり教師が使いやすいんじゃないかという部分と、ちょっと非常に迷いがあってですね、最終的にはですね、やはり私はできるだけ教科書は教師が使いやすい実態がそろったもののほうがいいんじゃないかというふうに考えてますので、最終的には光村で、そう考えました。

教 育 長) それでは、私が最後に述べさせていただきたいと思います。実は、きょう全 13 種目採択ということで、膨大な時間が予想されますので、できるだけ簡潔にというふうに思いますけれども、この国語に関してだけは、少し時間をいただいて、お話をさせていただきたいと思います。これ以降の種目についてはそういうことはしませんので、スピードアップしてやれるのではないかと思いますけれども、しばらくお耳をお貸し願えればと思います。

私は東書を推したいというふうに思います。これからお話しすることは、東書についての採択に向けた推薦理由という部分もちろんありますけれども、私としては葉山町の小学校の国語教育、ひいては小学校の授業全般への提言というつもりでお話ししたいことがございます。つい先日、新聞紙面等では全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。各紙の報道によれば、今回も目的や意図に応じて自分の考えを明確に書いたり、複数の資料から必要な情報を読み取って判断したりするのが苦手な傾向は変わらなかったということが伝えられています。新学習指導要領をめぐっては、実にさまざまな議論がありますけれども、今しがた申し上げたような今回の結果とかかわりのある大事な点が一つあるというふうに思っております。

さまざまな論点の中から、一つ抽出するわけですが、育成すべき力というようなことがとても大きく取り上げられているわけです。育成する力を基準にして、何を学ぶか、いかに学ぶかということを考えていきたいというふうな構成になっているというふうに思いますけれども、その際、そこで求められている力の大きな柱として、例えば、思考力・判断力・表現力というのが挙げられています。これは本当に大きな柱だと思いますけれども、しかし、これはもう一方で問題発見力とか論理的な力とか言語的能力、あるいはICT活用能力とかといったような、国語に限らない、いわば汎通的・汎用的な能力というのを必ず伴っていくものだというふうに思っております。特に国語について言えば、狭義の国語力、あるいは伝統的な国文的な力にとどまらない、日本語としての言語力というようなものの育成が求められている。そういうものが基礎にあって初めて他の教科の学びも成り立つのではないかというふうに思っております。こういうふうに言うととても俗っぽい言い方に

なるかもしれませんがけれども、微妙な気持ちや思いを伝えるような国語力である以前に、明確に考え、判断したことを正確に伝えられるような、日本語力を身につけてほしい。まず、自分の頭の中で考える言語そのものが非常に明確であってほしい。そして、そのことを非常に明確に、正確に伝えるような日本語力であってほしいということを強く思っています。

さて、そこで、これは葉山に限らないと思いますけれども、小学校6年間の教育を終えた子どもたちが、中学校用の、数学や理科や社会などの教科書を初めて手にしたときに、それを満身に読むことができるのだろうか、読みこなすことができるのだろうか。そのことについて大変疑問があります。ページを開けば音読はできますよね。字面どおりに読めるとは思いますけれど、果たしてそういうことができたとして、文章全体の読解力のようなものがついていけるのだろうか。あるいは、長い文章や長い構成でつくられているようなものについて、そういうところを本当に理解しているのだろうかということについて、大変疑問であります。そのことが、例えばですけれども、数学の文章問題の正解率のようなものを著しく下げているのではないだろうか。そもそも、数学的な計算ができないというよりは、それ以前の文章そのものの理解ができないというようなことが根底に横たわっているのではないかとこのことを危惧しております。国語こそ、各教科の一番土台にあるような日本語力育成をつかさどる教科でありますけれども、その使命が十分自覚されているようには思いません。

残念ながら、このことに関する危機意識は葉山町でも大いに不足していると思います。従来どおり、文学作品を中心にした、いわゆる国語らしい国語作品の理解を中心とするような学習が圧倒的に優先されているのではないかとこのことを危惧しています。平たく言うと、数学や理科の文章を読めるようになっていけるのだろうかということが言いたいわけです。話を少し拡大し過ぎていることになるかもしれませんが、今の子どもたちは、将来、もう今、既に始まっているかもしれませんが、AIと張り合いながら、それと共存し、それを使いこなしていかなければならない。しかも、とどまることのないグローバル化の展開の中でそれを成し遂げないといけない。そういう形で生き抜いていかなきゃいけない。とても重い、大変な時代背景、環境の中に置かれることになるだろうと思います。そういう子どもたちにとって、思いやりを持った優しい人に育つということは、とても大事なことでありますけれども、それと同時に、それと並んで、明晰な判断力と明確な表現力を持った子どもに育てることが重要なんじゃないか。そんなふうに思っています。

こんなふうな、警鐘を鳴らしたいという問題意識から、あえて国語の教科書の推薦についても工夫したいと考えました。少し大げさな言い方をしますと、ともに私が尊敬している2人の偉大な日本人ノーベル賞作家がいます。その、お2人の受賞記念講演のタイトル、皆さんよくご存じだと思いますけれど、これをもじって言い

ますと、美しい日本の私をつくることだけではなく、曖昧ではない日本の私を育てなければいけない、そんなふうに思っております。

以上申し上げたことは、必ずしも教科書それ自体に正確に内在するというか、それに起因するというのではなくて、今回の新学習指導要領が提起している、どのような資質能力を育てようとしているのか、そのためにどのように学ぶのかというところにかかわっているわけでありまして、現場の先生方の教材の取り上げ方や、実際の教え方次第というところも十分にあるかなというふうには思います。そのことを踏まえた上で、あえて申し上げます。

東書は国語科で育むべき資質能力を言葉の力というふうな概念で総括しております。これを、話す・聞く・書く・読む、そういった各分野において系統的に展開しようという、そういう一貫した意図が見られます。狭義の国語力、国文的能力のさらに根底にある、日本語力としての汎通的・汎用的能力の育成を最も強く、明確に意識した教科書なのではないだろうかというふうに思います。つかむ・取り組む・振り返るといった学びの3ステップについていえば、やや懇切にアシストしすぎるところもあると、若干懸念はしましたけれども、そのことについては、教員と子どもたち自身が試行錯誤し迷いながら、模索する余地も十分必要ですよということを、ただし書きとしてつけた上で、その他の点について評価すべきところが多々あったというふうに考えています。表紙を含む絵がきれいだ、先ほど水沢さんがおっしゃったようなことも含めてですけれども、そういったこと、それからさまざまな子どもたちが読んだほうがいいと考えられる本の紹介が、極めて充実していること。こういうことも大変印象に残りました。

光村につきましては、何が悪いとかって言うことを言っているつもりはありません。小峰委員が強調されましたように、読み手の心に残る教材が本当に多く掲載されていると思います。全体として教材編成に伝統の力も感じさせますし、教員の支持も大変に厚くて、いわば安心して任せられる教科書であることについて、全く異論はありません。教員がねらいごとに教材を切り分けて、あえて強調して使ってくれる分には十分ということもよくわかります。ただし、繰り返しになりますけれども、日本語力としての汎通的・汎用的能力の育成について、教員の心がけや意欲次第で効果が期待できるとはいえ、あえて今回、教科書を変えることによって、東書の長所に着目し、東書に切りかえることによって、いわば葉山町で何十年来使ってきた伝統的な教科書に依存する、頼るのではなく、あえて一から教材研究をやり直すぐらいの心がけで、先ほど私は危機意識というふうに申し上げましたけれども、そういったものに応えられるような、新たな新学習指導要領の国語教育に臨むべきである、そんなふうに考えております。

そういうことで、一つの問題提起というような意味で、東書を推させていただきますと考えております。私からは以上です。

では、一通り5人の意見表明がありました。これについて再度何か意見等、伝えたいことがありましたらお伺いしますが、いかがでしょうか。よろしいですか。鈴木委員。

鈴木委員) 今、教育長が言われているのはごもっともだなと思いながら聞いてたんですけど、そうすると、やっぱり教師の技量というものもかなり大きくものをいってくるのかなと思うので、その辺のことを考えると、教育長の言われる東書でいいのかなというふうにもちょっと思うので、僕はやっぱり光村でいくべきじゃないかなというふうに思います。

教育長) ほかにはよろしいですか。

それでは、冒頭、採択の決定方法について確認をしましたので、今回特に変更の申し出がなければ、3名の方が光村を推しておられます。ご指定でございますので、決定方法に従いまして、国語については光村を採択するということに決したいと思います。これでいかがでしょうか。よろしゅうございますか。それでは、国語につきましては光村の教科書を採択いたします。

では次に、書写に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

学校教育課指導主事) それでは続いて、書写についてご説明をさせていただきます。各社共通して、新学習指導要領において、書写は硬筆を各学年、毛筆を3年生以上で行うこと、年間30単位時間を設定することになっていることに、きちんと準拠していました。また、筆運びを練習するための水書用紙が、学校図書を除く教科書に添付されておりました。

次に、各社の特徴です。東京書籍。判型はA B判で図版が大きく掲示されており、また、書き込みやすいつくりになっている。3年以上は、6年間の学習内容が記載されている。外国語活動で推奨されるローマ字の罫線間隔を採用している。

学校図書。学習の流れが明記されており、書写学習が自然と定着するように配慮されている。書き初め教材等の見本が原寸大である。また、書き込み欄が豊富に設けられている。

教育出版。話し合う様子が例示されるなど、対話的な学びをサポートする工夫がされている。書いて伝え合おうなど、他教科や学校生活に生かす工夫がされている。

光村図書。ポイントが一目でわかる「大切」や漢字図鑑があり、親切なつくりになっている。外国語活動で推奨されるローマ字の罫線間隔を採用している。

日本文教出版。学習過程を明確に示し、見通しをもって学習できるようにしている。一教材一目標と自己評価の項目を設定し、学習の達成感を味わうことができるように工夫されている。

以上、5社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補が東京書籍、第2候補が光村図書です。東京書籍は、1年生の文字の練習に入るまでの練習ページが充実している点や、書き込み欄が充実している点、紙質も書き込みやすい点が

評価されています。光村図書も書き込み欄が充実しており、学習順が、1画で「へ」や「く」「つ」から入り、文字の練習の順番にも合理性がある点などが評価されております。以上です。

教 育 長) 今の事務局説明でご質問等ございますか。

特になければ、第1候補、東書、第2候補が光村となっております。各委員のご意見をお伺いいたします。遠藤委員、お願いします。

遠 藤 委 員) 私は光村を推したいと思います。今いただいた視点に加えまして、水書用紙が用意されていること、それから使用する題材が国語から用いられている観点から、私は光村を国語で推しましたので、同じ光村を書写でも推したいと思います。以上です。

教 育 長) 小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私も、今、遠藤委員が言った視点で言えば、国語の教科書と同じ光村がいいかなと思ったのですが、最終的に言えば東書、国語と違う出版社のものでも大丈夫だと観点で東書です。その1つの理由は、左ききの子に対しても配慮があるような、一番最初のページに、左ききの子も文字が見えるような持ち方で鉛筆を持ちましょうということが書いてあって、そういう点は広くいろいろな子どもたちに対する配慮があるかなということと、それから、先ほども指導主事が言われた大判で直接書き込むことができる紙質、これはできるのかどうかわかりませんが、いわゆる書写ノートを買わなくても、この教科書一つで済むことになるんだったら、これは大変、経済的にもいいことかなと思いました。国語の教科書と出版社が違っても、そんなに国語教材との重なりがないようなので、いいかなと思いました。そこで、先ほど言ったような理由で、書写については東書を推したいと思います。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私はやはり東書を推したいというふうに思っております。先ほど、国語で言ったことと共通する部分があります。やはり、生徒のほうの自主性というか、まず書くということを促そうという意識が全体に感じられます。まず、紙面が大きいということもあるし、さまざまな形で、まずは書いてごらんくださいということのメッセージを強く発している教科書だと思いました。だから、当然、空白部分が多いのが国語の教科書と似ていることになります。光村は、国語の教科書のときほどいっぱいではないです。やはり書くことを重視しているからだと思います。そういう空間が十分にあるのですが、また、丁寧で見やすく親切に構成されていますが、国語のときの光村の特徴は、ややこちらだと抑えられてる。それに対して、東書のよさが書写だとはっきり前面に出ている。僕は国語も書写も東書を推したい。両方ともに一貫してると思っています。以上です。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 私は最初、光村かなとはちょっと思ったところもあってですね、本来は同じ方が

いいんじゃないかという、小峰先生と意見は同じなんですが、内容的に見て、子どもたちの使い勝手を考えるとですね、東書かなということで、僕は東書を推したいと思います。以上です。

教 育 長) 私ですが、全体として、決して甲乙はつけられないとは思いますが、光村を推したいと思います。東書のよさも十分にわかるんですけども、先ほど遠藤委員がおっしゃられたのと同じように、最前の議論で国語の教科書を光村にいたしましたので、それにそろえていいかな。あえて言葉をすごく圧縮してしまえば、やっぱり伝統的な光村の教科書の力を、もう一度活用して、本町の国語教育をさらに推し進めようというふうなことを、いわばみんなで合意をしたわけだから、以前から、国語についても書写についても光村を使っていますので、そういう意味ではやっぱりそろえて、今回も書写を光村にすべきなのではないのかなというふうに思います。

特に、書写の内在的な理由について決定的な根拠を持っているわけではありません。あえて言えば、文字を書く際の合理性というようなことについて配慮をし、学びやすく教えやすいつくりになっているということだと思います。これがぴったりの例かどうかわかりませんが、書きやすい姿勢、筆の持ち方というふうなことに関しては各社とも簡単な注意がございますけれども、1、2年の書写体操というものも掲載されていて、それなりに細かな配慮をしているのかというふうに思いました。これも光村に限ったことではありませんけれども、文字の学習順とか水書の添付についても、それぞれ、学びやすさや教員の指導のしやすさというようなものに配慮しているかというふうに思います。以上の理由で光村を推したいというふうに思います。

特に、重ねて何かご意見がありましたら伺います。

特にないようでしたら、東書を3人の方が支持をされましたので、書写につきましては東書の教科書を採択したいと思います。

では続きまして、社会に移りたいと思います。事務局の説明をお願いします。

学校教育課指導主事) 各社共通して、新学習指導要領に準拠しております。分量は適切で単元にも偏りはありませんでした。

次に、各社の特徴としては、東京書籍。地図・写真が効果的に配置されている。文字もクリアで読みやすい。巻頭にこれまでの学びと、その年での学びが簡潔にまとめられており、学習の見通しが持ちやすい。単元の初めに学習の流れが記述されている。学習活動が明確で児童が学びやすい。

教育出版。巻頭に前年の振り返りとその年の学習内容が簡潔にまとめられており、学習の見通しが持ちやすい。1時間ごとに学習の流れが示されており、問題解決的な学習活動ができる。3、4年で県内の身近な場所が取り上げられている。

日本文教出版。学習の流れを意図的にはっきり書かないところもあり、授業の組み立てを工夫できるつくりになっている。教員が膨らませられる良さがある。写真

やグラフが多く掲載されている。

以上、3社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補として教育出版、第2候補が東京書籍です。教育出版は、学習の進み方が児童にとってわかりやすい点や、神奈川県に関する内容が多い点が評価されました。東京書籍は、つかむ・調べる・まとめるという学習の流れが明確である点や、資料がわかりやすい点などが評価されております。以上です。

教 育 長) 何かご質問ございますか。どうぞ、小峰委員。

小 峰 委 員) 今、社会のところで質問していいのかどうか分からないんですけども、今回の教科書には多くのQRコードがついていますけれども、今の学校の現状として、これから教科書が採択されたときに、QRコードは子どもたち、あるいは先生方についてどのように活用できるのか、使える機器の問題もあると思うんですけども、今、指導主事の方がお考えになっている範囲内で結構ですので、QRコードの活用についてお話しいただければと思います。

学校教育課指導主事) まず、QRコードの最大のメリットについてご説明いたします。読み取るだけで対象の補足情報や詳細な情報に、インターネットを通じてアクセスできるというのが、このQRコードのよさです。例えば、外国語のある教科書ではQRコードからホームページにすぐ飛んで、そこから教科書に記載されている文章などを音声で聞くことができるなどの機能があります。葉山町立の小・中学校ですが、PCルームの普通教室や理科室などの特別教室にはネットワーク環境が構築されておりません。ですので、この機能を活用できるのは、PCルームのみとなっております。したがって、現状では授業での活用は非常に限定的なものになってしまうと思われます。また、家庭において積極的に自主学習等に活用していただきと申し上げるのは、教育の公平性の観点からも、現時点では難しい状況になっています。今後につきましては、文部科学省が公表している2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針においても、2022年度までに全ての普通教室や特別教室において、ネットワーク環境の構築が求められております。また、そのための地方財政措置も講じられております。ですから、葉山町といたしましても、早急に計画的なICT環境の整備を進め、QRコードも含めた視覚的教材やデジタル教材の有効な活用ができるよう、普通教室等におけるネットワーク環境の構築を目指してまいりたいと思っております。以上です。

教 育 長) ほかにご質問はいいですか。よろしいですか。

それでは、意見表明に移ります。遠藤委員のほうからよろしく申し上げます。

遠 藤 委 員) 教育出版と東京書籍で大分迷いましたけれども、東京書籍を推したいと思います。東書のよさは、年表を初め本文、資料と児童に気づいてほしい、考えてほしいポイント提案がすごくわかりやすく、レイアウトもとても見やすいと思いました。また、学びの手引きの発問もよく、児童が自主的に考えをまとめる構成になっています。

1章が短めで、章末のまとめが知識の確実な定着を促していると思いました。

東京書籍は自ら考え・調べ・深めるような教科書づくりができると思います。鎌倉見学に行く葉山にとって、鎌倉幕府のエピソードが多いのも大変魅力でした。資料も丁寧で書院造の写真には、飾り棚など、細かい表記があるのもとても興味深かったと思います。

それぞれによさがあり、悩みましたけれども、資料の丁寧さから関心を高められること、発問が児童が話し合い、みんなで考えるような内容になっている点などから、東京書籍を推したいと思います。以上です。

教 育 長) 小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私は教育出版です。学習問題について、予想して学習計画を立てて、みんなでつくった学習問題という形式になっている、そのことが大変気に入りました。まず話し合いをして、それで今回のこの単元での学習問題が何であるかを絞るということを用意している学習問題の書き方だと思います。その点が大変、今回の新指導要領に沿った問題の提示かなというふうに思ったところです。

もちろん、東京書籍のほうの学習の進め方も、学習問題をどうやってつくっていくかという進め方を確認しようというようなところもありますし、教育出版と比べて劣るとか、教育出版が断然いいというわけではないんですけども、先ほども言いました、みんなでつくった学習問題という言葉そのものが、まずは話し合おうということを進めている点でいいと思いました。

それから、3年生・4年生、先ほども指導主事からお話がありましたけれど、横浜とか神奈川県が用いられているということは、必要があれば身近に見に行くことも可能だという点では、葉山の子どもたちにとっては、それからまた先生方にとってもイメージしやすい学習ができるのではないかなと思いました。また、6年生に大変広い年表がついているという点でも、いろいろな活用ができ、広範な資料として使えるかなというふうに思いました。また、今まで使っていた教科書でもありますし、それに即した補助資料も学校で集められているのではないかなという気持ちもあります。そこで教育出版を推したいと思います。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私は教育出版を推したいと思っております。全体が、まず、とても見やすい。簡潔に構成されている。メリハリもレイアウト上でできていて、二つ折りページが構成の中に入るところがあり、わかりやすくできています。ただ、その分、やはりちょっと情報が減るのかという懸念が、東書と比べるとあります。東書のほうがディテールに関してより豊富に盛り込まれていたのではないかなと思います。

ただ、基本的に環境に配慮しなければいけないこととか、持続可能であることとか、そういうことの意識は両方、共有されているのですね。ただし、教書の方がやや物足りないと思われ、歴史の部分の記述も薄いように感じます。でも、そ

の分ほかをより見やすくしたと考えればいいかなと思います。そうすれば、教科書の使い方によって歴史的な意識も絶えず促しながら、教書を使っていけば十分に教科書として使えるだろうということで、教書のほうを推したいと思います。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 私も教出で。全体的に見て、子どもたちが理解しやすい、わかりやすいんじゃないかなというふうに考えて教出にいたしました。

教 育 長) 私もほかの委員さん方と同様なんですけど、教出にしたいと思います。理由はほとんど同じです。目当てとしての問いから始まって、学びを深める、学びを追求する過程を活動として意識し、さらにつなげていくという形で学習の発展及び運びが上手につくられていると思います。

東書についても、つかむ・調べる・まとめるというような学習の流れは丁寧につくられているということは十分わかりますが、若干、私の観点で疑問だなと思うのは、子どもたちの気づきを先回りしてしまうような発言というのか、キャラクターの活躍ぶりというんですか、そういうふうに目立つところがありまして、やや懇切過ぎるんじゃないか。やはり迷いながら考えて、迷いながら対話するということの方が大事なので、ルールを引きすぎないということも一方で重要な考え方かなというふうに思っています。

教出については、皆さんおっしゃられましたように、神奈川県にまつわる教材も多く取り上げられておりまして、子どもたちになじみやすいということもプラスに数えられると思います。例えば、3年時に横浜市が全体にわたって教材としてフィーチャーされていたり、4年時に神奈川県内の水道施設ネットワークですか、これが存分に使われていたりとか。私たちにとって使いやすい教科書なのかな、そんなふうに思っています。

意見ないですか。特になければ、私を含めて教育出版が過半数を占めましたので、社会の教科書については教育出版を採択することといたします。

それでは続きまして、地図について事務局の説明をお願いします。

学校教育課指導主事) 各社共通しまして、周辺諸国がわかりやすく表示されている。国旗や外国語名で外国語・外国語活動と関連を図ることができる。初めて地図を使用する3年生段階を意図したさまざまな工夫がされている。

次に、各社の特徴としては、東京書籍。情報量が豊富。また、地理と歴史が関連づけられているページがある。注目させたいデータを赤字にしており、見つけやすい。

帝国書院。情報を限定し、シンプルで見やすい工夫がされている。一度に情報が処理しにくい児童にも扱いやすい。巻頭の地図の約束、地図帳の使い方がわかりやすい。

以上2社の中で、採択検討委員会の候補となったものは、第1候補として帝国書

院、第2候補として東京書籍です。帝国書院は、地図の作りがしっかりしている点や、導入や振り返りに活用する地図の約束が児童に活用しやすい点が評価されました。東京書籍は、レイアウトや色使いなどが優れている点や、情報量が多い点が評価されました。以上です。

教 育 長) 質問はよろしいですか。じゃあ、遠藤委員から意見表明をお願いします。

遠 藤 委 員) 帝国を推したいと思います。見開きのページで文化を示すイラストを含めた地図ですけれども、そんな中でも海の名前や国境、緯度、経度、縮尺、日付変更線など丁寧に描かれていて素晴らしいと思います。また、地図の約束では、大人も含めて地図を一人で読みこなす力を育成できると思います。広域地図と拡大地図を2種類用意している点も、3年生からの4年間の学びに向いていると判断し、帝国を推したいと思います。

教 育 長) 小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私も帝国書院の地図を推したいと思います。今、遠藤委員が言われた意見とほぼ同じになるかなと思います。現在使われている帝国と東書と比べると、2年度版は何かお互いにだんだん近づいてきたなという印象があります。けども、やはり東京書籍の地図の方が情報が多く、情報が多いがために焦点がぼけるといふか、本当に地図を見たいという視点で活用するには、ちょっと邪魔という言い方はおかしいかもしれませんが、情報が多すぎるのはどうかなということを思いました。これは前から考えていることなんですけれども、帝国書院のほうが、卒業してからも手元に置いておきたい地図になっているかなという感じです。そういう点で、ずっと持っていたい地図として帝国書院の地図を推したいと思います。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私も帝国書院を推したいと思います。まず、二次元の平面としての地図というのを、全てにおいて基準にしてつくっているという発想に、いろんなものが盛り込まれている。そこが揺るぎない感じというか、それが教科書として非常に信頼性を感じさせてくれるという、そういう点が高く評価できると思います。

東書のほうも、文化とか生活に対する情報が盛り込まれていて、単純に、物理的な空間としての地理だけではない問題へと意識を促す点は評価すべきだと思います。将来的に、この2つがやっぱりもっとブレンドされていくべきだろうと思います。これはもう次の世代が、どういうふうに地図というものを日常的に見るかということと関わります。もはやナビで地図を見ている人の方が多いのではないかと思えるような世の中になってきてしまって、車の中で地図帳を開いている人はあまりいない。そうすると、いわゆる二次元の地図はやがて変わっていくかもしれない。ただ、東書はそこまでは踏み込んではいないのです。また、そこまでは、教科書としてはどうかと思われまふ。ということで、手堅い帝国書院を推したいと思います。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 私は、地図ってというと帝国だというイメージが自分の中で非常に強いので。もう一つですね、東書もあまりに情報量が多くてね、目で物を覚えてしまうのはちょっと嫌だなと。やっぱり地図という教科書で、要するに、目で覚えるものはある程度限られたものであってほしいと。あまりにも情報が多いことによって、ちょっと見にくいかなと。今の子どもにとってはこちらのほうが見やすいっていうのかもしれないんですけど、私は地図というものはそういうものじゃなくてですね、帝国書院のほうがいいんじゃないかな。ですから私は帝国。

教 育 長) では、私から申し上げます。私も帝国書院の地図を推したいと思います。理由としては、東書のほうについて申し上げますと、例えば日本史地図と世界史の動きなどを拝見しますと、子どもを誘うような仕掛けが施されているなということがよくわかりますし、ある意味では見るからに楽しい、見ても楽しい地図帳ですね。その一方で、皆様方もおっしゃられたように、キャラクターのセリフとか絵が地図上にもいささか氾濫しすぎではないのかと、うるさく感じます。いいなと思ったところは、例えば、真上から見ると地図になるようなコーナーとか、世界地図と地球儀との関係などというのは、これは非常に本質的なものです。そもそも、地図は何かということを理解すれば、あとは地図が自動的に動き出すんじゃないかと私は思っていて、この導入のところは評価できるなというふうに感じました。

他方で、帝国のほうについて考えてみますと、そもそも地図帳というのは使われている記号などを含めて、具体的なものを縮小化、形式化、抽象化、記号化したエッセンスだというふうに思います。それを想像力を駆使しながら使いこなすのが、地図本来の使い方というふうに思っております。したがって、具体的なイラストも小学生相手とはいえ、ほどほどがいいのではないかと。そんなふうに考えていまして、帝国は比較的抑制がきいていて、もしかしたら東書に近づいたこともあるかもしれませんが、地図本来の要請に込めているのではないかと考えました。

東書について評価したのと同様に、一ついいなと思ったところを挙げますと、地図って何だろう、地図上の約束 1、2、3 は非常にわかりやすく、よく工夫されていると思います。また、全体としては A4 判で見やすくなっているというふうなところも感じました。以上で帝国を推薦いたします。

これについては、5 人全員一致して帝国にしましたので、地図帳に関しては帝国の教科書を採択します。よろしいですね。

それでは次に、算数に移りたいと思います。事務局、説明をお願いします。

学校教育課指導主事) 各社の特徴を申し上げます。東京書籍。「図から友達の考えがわかるかな」などの言葉があり、どのように考えればよいか手だてが明確に示されている。他教科との関連が的確に示されている。特に、理科での重さやグラフとの関連が図られている。

大日本図書。家庭学習に配慮されており、「保護者の皆様へ」というコーナーがある。インクルーシブの視点から、外国籍や車いすのキャラクターが登場する。

学校図書。ブロック図を使った概念獲得の工夫がある。具体物から半具体物への移行がスムーズである。1年の内容の発展として、簡略化された割り算の仕組みが説明されている。

教育出版。学びの連続性が意図されている。中学校のどの学びにつながるかということが示されている。巻末に読み物資料がある。また、他教科との関連が多く示されている。

啓林館。表現力の育成に力を入れている。定規の使い方が具体的に連続写真で表示されていてわかりやすい。

日本文教出版。ノートづくりに力を入れており、どの学年でも最初に示されている。めあてを書く、見通し、まとめを書くなど、具体例も示されている。巻末に自身の学習状況によって選択できるドリル学習がある。

以上6社の中で、採択検討委員会の候補となったものは、第1候補が学校図書、第2候補が東京書籍です。学校図書は、児童が説明したいなという気持ちにさせる仕掛けがふんだんにあり、主体的な学びにつながる点が評価されました。また、プログラミング教育について、全学年で触れられる点も評価されました。東京書籍は、具体物から半具体物への移行がスムーズである点や、理科との関連が十分に図られている点などが評価されました。以上です。

教 育 長) ご質問がありましたらお願いします。よろしいですか。

では、遠藤委員から意見ををお願いします。

遠 藤 委 員) 私は東京書籍を推したいと思います。私の観点としましては、幼小連携、中1ギャップ対策が算数の課題となる中で、特に1年生と高学年の教科書を中心に、考察をまとめさせていただきました。理解することに主眼を置く学図、理解し発表することに力点を置く東書という印象を受けましたが、学図のよさは、教科書の大きさへのこだわりが物語ってますが、問題文を高学年まで丁寧に図式化してイメージをつくることを数多く体験させることに主眼を置いています。問題文が「花畑」ならその「花畑」といったように、算数だけでなく、実際の生活に役立つ観点も育てているかと思います。東京書籍の魅力は、A3のスタートアップ教材と、全学年を通して自分の考えをどうまとめ発表するかの掲示のうまさかと思います。スタートアップでは、算数ブロックがテキストにそのまま置けたりと、幼稚園のころの学習教材に近く、ゲーム性があって入りやすい内容かと思いました。発表に主眼を置く内容が、理解スピードによってはレベルが高いかと思いますけれども、中学に向け、ノートをいかにまとめていくか、中学・高校のテストで条件を理解し、答案用紙をどうつくり上げていくかも必要になっていきます。大学受験で記述型に向かう時世ですので、スタートアップと自身の考えをまとめて発表する力を育てるとということ

に力点を置く、東京書籍を推したいと思います。

また、今回、最終候補に残らなかったのですが、高学年での力を伸ばすという観点で、私は2社、ちょっと補足をさせていただきたいと思います。算数は仲間と話し合う教科と捉え、かつ東大王の問題や退屈な計算問題の下には四コマ漫画を載せた教出のテキストは、算数好きな児童の心理をよくわかっているなど感心しました。また、啓林館の教科書は、中学の勉強にスムーズに移行できる、中学ギャップを生まないような、とてもいい教科書だなという印象を受けました。問題文の中で何を求めるのか、何がわかっているのかという条件を整理する考え方や文字式に、 X や A を取り入れたり、大胆ではありますが、算数のレベルを上げていきたい児童に向いてるかと思いました。6年間の学びを考えたときのスタートアップ、それからつまづきを生まない。それから中1ギャップを生まないという6年間の見通しというところでは、東京書籍を最終的に推したいと思います。以上です。

教 育 長) 小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私も東京書籍を推したいと思いました。今まで使っている学校図書についても、先ほどお話もありましたように、段階を追った丁寧な指導が期待できるという点では、わかりやすい算数という指導ができるかなということで、その点は買いたいと思います。今回、東京書籍を推した一つの理由は、小学校1年生の別冊扱い、ちょっと判が大きくなっていて、いわゆるスタートカリキュラムにも相当するような、入門期だけ独立して学ばせるというアイデアが大変いいなと思いました。東京書籍はこれだけじゃなくて、ほかの教科でも、割合、別冊扱いをしているものが多いんですけれども、特にこの算数の別冊扱いは、これがどう今後、評価されていくかはわかりませんが、私としては、一ついい試みかなと思いました。

それからもう一つは、やっぱりノートの作り方、各出版社も算数のノートの作り方を提示していますけれども、私は、個人の好みでいえば、東京書籍のノートの作り方が一番いいかなと思いました。教育出版も「友達のノートを見てみよう」というページがある点での評価はできますけれども、比べたところ、東京書籍のノートの作り方、これは子どもたちの学習意欲というか、今後子どもたちがきちっとノートをつくりながら学習を進めていくという面では参考になるものだと思います。

そういう点で、東京書籍を推したいと思っています。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私は、学図を推したいと思っています。ここでも東書は大変すぐれていて、自分で数学・算数のことを考えてみようという促しが、全体の教科書に性格づけとしてはあります。それは恐らく、他学科との関係性などを考えさせようという、そういうふうな促しの力を持っている教科書だと思いました。

ただ、学図のほうのよさは、非常にわかりやすく、ビジュアルにしてある点です。

図式という形で算数というものをしっかり捉えていこうというところが、完全に一貫している。私自身、算数苦手だったので、はっきりビジュアル化してくれる教科書のほうがいいなと思うのです。僕は視覚人間なのかもしれません。ビジュアルの点で明快であると思います。曖昧にしないで、そこでまずしっかり認識させてくれるという教科書のあり方は、算数の場合は価値があると評価しての学図です。以上です。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 私はですね、学図と啓林館、かなり迷ったんですけど、今でも学図だということと、それから、評価の中で、その本校の子どもたちの実態から見て、啓林館だとちょっと変わり過ぎているかなという印象を受けました。私の頭の中では差はほとんどないんですが、前回採択が学図なので、学図でいきます。

教 育 長) では、私から申し上げます。私も学校図書を推したいと思います。学図は、例えば、単年度導入に当たって、ハテナを発見というふうな形で、子どもたちが日常生活から算数の問題を発見する、そういったような工夫を行っています。いきなり答えにたどり着くのではなくて、できるだけ手数を踏んで進んでいくようなスタイルも大変丁寧だと思います。各学年の活動のところでは、図式や表、グラフ等から根拠を伝えられるような活動も設定をされている。説明という形での対話的な学習にも入っていきやすいようにつくられていると思いました。

また、先ほど、事務局のほうから紹介がありましたけれども、全学年にわたってプログラミング的思考の育成に向けたテーマを設けているというふうなことも、非常に特徴的かというふうに思います。

機械的な計算とか、数学的な抽象とか、駆け足で安易に入っていくのではなく、子どもたちが具体的なイメージの中で、あるいはその延長上で計算式なんかを理解できるような、そういうことを配慮した教科書であるというふうに思っております。そういうことで、学校図書を推させていただきますが、しかし、この教科書は前回は採択をしており、そういった、ある意味では非常に丁寧なというか、わかりやすい教科書を使っているながら、なおかつ本町でも算数が苦手だというふうに言っている小学生が多いわけですから、力強く推すと言い切ることにためらいがあります。この教科書を使った教え方について、まだまだ本町の先生方にはさらなる工夫・改善に取り組んでいただかなきゃいけないんだということを強く感じております。そういう、いわばただし書きというか、注文をつけた上で、学校図書を推したいと思います。

何か重ねて御意見ございますか。

特になければ、では、採決方法に従いまして、今回学校教科用図書につきましては学校図書が過半数を占めておりますので、算数の教科書については学校図書の教科書を採択いたします。

それでは続きまして、理科に移りたいと思います。事務局、説明をお願いします。
学校教育課指導主事) 各社の特徴を御説明いたします。

東京書籍。全ての教科書会社の中で最も大判で、A4サイズである。巻末に付録として人体模型の工作などがついている。「理科の見方」というコーナーで、理科の見方、考え方がわかりやすく例示されている。

大日本図書。単元が細分化されており、植物の成長や天候に合わせて授業ができるよう工夫されている。巻末の「使い方を覚えよう」で、器具の使い方や理科の決まりが書かれ、観察や実験が安全にできるよう配慮されている。発展的内容としての読み物が充実している。

学校図書。サイズがA B判で写真が大きく、見やすい。科学者や技術者がキャラクターとして多数登場している。発展的内容としての読み物資料が充実している。

教育出版。専門家からのメッセージを巻頭と巻末に記載している。危険を伴う実験の前には安全指導のページがある。また、裏表紙に理科の安全の手引が掲示されている。巻頭に全学年で学習したことがまとめられている。また、巻末に1年間の積み重ねがまとめられている。

啓林館。各単元末に身の回りの自然について関連づける読み物がある。6年ではプログラミングを体験しようというコーナーがあり、巻末のシートなどを使って、実際に体験をすることができる。

以上、5社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補が大日本図書、第2候補が教育出版です。大日本図書につきましては、思考力・判断力を育成するための科学的な見方・考え方がわかりやすく表現されている点や、単元が細分化されており、植物の成長や天候に合わせて授業ができるよう、単元が配置されている点が評価されました。教育出版については、見方・考え方の掲示の仕方や、課題解決型学習の思考の流れに沿った形になっている点、巻末の読み物が興味深い点などが評価されました。以上です。

教 育 長) ご質問でございますでしょうか。よろしいですか。

それでは意見の表明をお願いします。遠藤委員。

遠 藤 委 員) 私は教育出版を推したいと思います。身近なことに関心を持ち、調べたいという意欲をかき立てるのが大日本。授業課題がある前提ですが、深く学ぶことに主眼を置いた教育出版のように感じられました。

大日本のよさは、アサガオやメダカなど、生物分野の資料ではイラストに頼らず、拡大写真をなるべく多く使っているところがよかったかと思います。また、実験までの予想段階では、教科書に出てくるキャラクターが疑問や感じたことを言うのみで、答えになる、答えに導くようなヒントは載せていないところ、また、身近なところに関心を持って、どう調べるかを子どもたちに考えさせるには最適かと思えます。資料は大きく美しいですが、文字が多過ぎないので、体裁もすっきりして

います。巻末の「科学館・博物館に行ってみよう」、全学年の星座、災害袋、クイズといった巻末資料もとても魅力でした。

教育出版は、学習させる教科書という印象を受けます。巻頭には前年度の振り返りがあって、実験前の予想などでも既に多くのヒントが見られますが、知識をふやしたいポイントというのがおもしろいかと思います。月の授業では「上弦」や「下弦」という言葉が出てきたり、6年生の人体の資料も、将来医学への関心につながるかと思いました。また、プログラミングの資料においては、信号機がグリーンに変わるプログラミングなど、わかりやすい資料でした。そして、教科横断という観点では、川のつくりから災害へと、関心をつなげるような資料もとてもよかったかと思っています。

身近なことに関心を持ち、理科を好きになるヒントがある大日本、また、深く学び、資料づくりが魅力の教出でしたが、やはり、多くを知りたい児童の関心をより引き出す教育出版を推したいというふうに思いました。以上です。

教 育 長) じゃあ、小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私は大日本を推します。先ほど指導主事からの説明がありましたように、単元が細分化されて、その時期その時期にうまく調節しながら学習が進められている点が配慮されているというところは、私も魅力的だなと思いました。

それと、今、遠藤委員もおっしゃっていましたが、どのように調べればよいかという投げかけができる...できているというところがよいと思います。子ども自身に問題を見つけさせる過程を大切にしている、これ全ての単元がそうとは言えませんし、ほかの出版社のほうがかような入り方はいいなというところは幾つもあったんですけども、姿勢として、子どもたちに問題を見つけさせる、どのように調べればよいかということは、その追求の過程で複線型の授業ができると思います。例えば植物の成長には何が必要なのかという投げかけ方をすれば、水だと思う子もいるでしょうし、日光だと思う子もいる、あるいは温度だという子もいる。じゃあ、A班はじゃあ温度でいこうか、B班は水でいこうかというようなことを進めていく複線型の理科の学習も可能だと、先生方にそういうふうに思っていたきたいのですけれども、そういう学習を意図しているところがあるなというふうに感じられました。

一方で、その教育出版のほうでは、インゲンマメの種子が発芽するためには水は必要なんだろうかという投げかけ方。これはもう水で、水について調べてみましょうという投げかけ方に対応すると、やはり大日本図書のほうの子どもへの投げかけ方、それからどのように調べればよいかというふうに、子どもたちに提示しているという点では、理科の進め方として私は好ましいなと思いました。

巻末の資料はどの教科書も魅力的なものがたくさんあるので、これについて大日本がいいとか、教育出版がいいとかということは言えませんでした。

結論から言えば、子どもたちへの投げかけ方について、大日本図書の理科の授業の進め方が私にとっては好ましく感じられましたので、大日本図書を推したいと思います。

教 育 長) じゃあ、水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私は大日本を推したいと思います。教育出版との比較、甲乙はつけがたいという印象ですけれども、やはり大日本のほうが情報量が豊富だったのかなと思います。個別のものに寄り添いながら。時間軸に沿ってそれを見ていこうということで教科書をつくっている印象です。そのことが子どもたちに、より細やかな観察眼を養うことになるのではないかと。恐らく、教科書に出ているものの事例というか、そういうものと現実に観察しているものとの差とか、そういうことも教育的な注意を促せば、そういうことにも活用できる教科書として、大日本のほうが魅力的なものであるというふうに私は受けとめました。以上で、大日本を推したいと思います。

教 育 長) 鈴木委員。

鈴 木 委 員) 私も大日本で。理由は、理科はやっぱり観察とかね、実験というのがすごく大事なんじゃないかなというふうに思っています。その観察や実験の工夫に配慮とかね、そういうものについて、一番子どもたち使いやすいんじゃないかなというふうに考えました。で、大日本。

教 育 長) 最後に私になりますが、私も大日本図書を推したいと思います。皆さんのお話に重複するかというふうに思いますけれども、申し上げますと、理科的な思考力・判断力が育っていく上で、見方・考え方とのかかわりの仕方が適切だったと思います。子どもたちが自分自身で、謎を自分で発見しながら考えていくことが大事だと思いますけれども、そういうことが十分に行われる以前に見方・考え方が示され過ぎるというのはよくないと、そんなふうに思っています。そういう点で適切だったかと思えます。

また、実験の結果とそこからわかること、すなわち考察の結果というものははっきり分けて説明しようとしていることも大事なかなと思います。6年生でより妥当な考え方をつくり、説明する力を育てるというふうな発想も大変興味深く拝見いたしました。技術的なことを言えば、観察カードやノートの記載例が比較的に教科書の記述の中に組み込まれているかなと思います。児童が取り組みやすくできているかなというふうに思いました。巻末の実験器具の使い方、観察・実験の安全なやり方等に関しては、各社やはり大差はないけれども、よくできているかなと思います。1つだけつけ加えれば、やはりプログラミング的思考の育成を意識した学習というのを、3学年以上の全学年にわたって用意をしているというふうなことも評価してよいかなというふうには思いました。よって、大日本を推します。

特に重ねて、ご意見ございますでしょうか。

特にないようでしたら、理科に関しましては、4人の委員が大日本図書を推し

ておりますので、理科の教科書については大日本図書の教科書を採択することいたします。

それでは続きまして、生活について、事務局の説明をお願いします。

学校教育課指導主事) 各社の特徴を申し上げます。

東京書籍。問いかけから学習がスタートし、子どもたちがどうしたらできるかと、思考する活動例が示されている。3年以上の「見方・考え方」につながる姿を児童の思考の流れに沿った形で、挿絵や吹き出しを用い、掲載している。

大日本図書。各单元において、導入、展開、振り返りまでの一連の流れが具体的に示されている。キラキラ言葉、生活言葉は言語活動を高め、表現活動に生かせるようになっている。

学校図書。物知りノートは記録や物づくりなど、活動の補助となる内容・ポイントが示されている。学び方図鑑は、活動のポイント、発表の仕方など、詳しく書かれている。素材や教材が複数提示され、地域や学校の実態、児童の興味に応じて選択できるよう配慮されている。

教育出版。見方・考え方や伝え方・話し合いの仕方が明示されており、主体的・対話的で深い学びとなる手がかりとなっている。各单元の最後で、自分の学習の振り返りをし、深い学びにつながるような構成になっている。「理科への窓」、「社会科への窓」で、中学年以降の学習につながり、興味を持たせるようにしている。

光村図書。スタートカリキュラムに関して、学校生活の様々な場合を写真で紹介し、期待感をもたせるとともに、やってみようと意欲を高めるつくりになっている。

啓林館。各单元で疑問の投げかけが行われ、気づいたことや思いや願いから意欲を持たせる構成となっている。スタートカリキュラムページでは、「学校大好きあいうえお」で紹介されている、学校のさまざまな場面を写真で紹介されている。また、家庭に帰ったときの様子が掲載されている。

日本文教出版。1つの单元は基本的に課題設定、活動、振り返りという構成になっており、見通しが持ちやすい。下段の巻頭では、2年になった喜びを持たせ、2年になったら何をしたいかを主体的に考える活動がある。また、1年とのかかわりを大切にしている。

以上、7社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補は教育出版、第2候補は東京書籍です。教育出版は写真が多く、子どもの思いや考えが引き出されるような文章になっている点や、他教科や総合的な学習の時間との関連が適切である点が評価されました。東京書籍は、問いかけから学習がスタートし、子どもたちがどうしたらできるかと思考する活動例が示されている点などが評価されました。以上です。

教 育 長) ご質問ございますか。

では、ないようでしたら、意見に移りたいと思います。まず、遠藤委員、お願いします。

遠 藤 委 員) 私は教育出版を推したいと思います。いずれも甲乙つけがたかったですが、東京書籍はA3のサイズを利用して、写真やイラストも大変迫力がありました。巻末の等身大のポケット図鑑、生物・植物を等身にイラストで書いてあるのが大変興味深く、子どもが手にとって見る様子というのをとても見たかったと思います。

その一方で、教育出版はサイズはコンパクトですけれども、表紙に見られるとおり、写真を多く活用し、植物の様子なども、本当に写真を使って理解につながるように示しています。また、巻末資料でグループでの話し合い、調べ方、聞き方、伝え方など、みずから積極的に学ぶ基礎づくりがとてもよかったと思います。

今後の授業へのルールや学び合いというところに魅力を感じまして、私は最終的に教育出版を推したいと思います。以上です。

教 育 長) 小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私は、採択検討委員会の第1候補でもなく、第2候補でもなく、光村出版を推したいと思いました。先ほど教育長が国語のところで教科書を変えることによって、先生方の授業の視点も変わってほしいという願いがあるということをおっしゃいましたけど、私も実はそういう意味で光村出版を推してました。

というのは、現在使われている教育出版も、それから東京書籍も、1年生で使うところの上巻で、学校探検がみんなでそろって、そろそろと並んでいく、東京書籍は写真でしたし、教育出版はイラストでしたけれども、そういう場面が載っています。これが学校探検だという概念で先生方に授業を勧めるのはどうかなということが私の中にはあります。

それからもう一つは、植物を育てるとか、花を咲かせようというところで、もう既にセットになっている植木鉢をどちらも使っています。そういう点で、もう、花を育てるときにはセットの、アサガオセットを買えばいいんだという、先生方の中にそういう前提があるのは、やっぱり生活科としてどうなのかなというふうに思いました。

それに対して、光村とそれから大日本は、何を育てようかなという、大きく投げかけて、最終的にはアサガオになってはいるんですけども、植木鉢も自分のうちにあるような植木鉢を用意し、土を自分たちで、そこは書いてないので教科書の中ではわかりませんが、植木鉢を自分のところから持ってくる、ということは、土も自分たちで選ぶのだと思います。セット物ではないというところ、そういう意図が見えるのが光村図書や、それから大日本でした。

やはり、私はそういうふうに生活科の授業を変えてほしいなという思いがあった教科書を選びました。そうすると、光村でも大日本でもいいんじゃないかという

ことですけれども、光村図書のほうが投げかけ、導入の場面での多様性がある。すぐに、例えばおもちゃをつくらうではなくて、これで何ができるかなというような、がらくた箱みたいなところ、がらくた箱とは言わないで、しょうが、そういうものの中から自分たちで使うもの探してつくるものを選ぶ。秋探しにいても、持ってきた材料の中で何ができるかなというような投げかけ方ができているという点で光村図書でした。

私、前回、光村図書を推さなかったのは、何となく紙面に統一感がなかったためですが、今回、前の教科書と比べてみると、光村図書の紙面に統一感があるというか、大変生き生きとした流れができていながらということを感じましたので、光村図書を推したいと思います。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私は教育出版を推したいと思います。確かに光村は国語のときと同じで、全体の、やはり絵本的な魅力があるというのか、非常に読みやすく、手にとりたくなるような魅力をまず発していると思いました。その点は光村も評価したいと思うのですが、やはり最終的には教育出版が、あくまで実践を根幹にして、さまざまな、具体的な例を紹介しています。その部分が安心して教科書として使いやすいのではないかというふうに思いました。ここでも東書はやはり問いかけをして、主体的に取り組みなさいという性格をはっきりと打ち出していますね。その点でそれは好印象でしたけども、生活に関してはやはり具体的事例を丁寧にたどっていくという意味で、教育出版を推したいと思いました。以上です。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 私も東書と教育出版、非常に迷ってましたけれど、どちらも子どもが理解を深めるといって問題になって、非常に使いやすいんだろうなと。甲乙つける理由がちょっと、あまり定かじゃないんですが、単純に前回採択しているのが教出、現在教出を使っているので、教出で。

教 育 長) では、私から申し上げます。私は教育出版を推したいと思います。実は小峰委員のお話を聞き、説得力があったというか、心が動かされる場所があったんですけども、私自身が高校の歴史の教員でしたので、小学校の低学年だけを相手にする生活科の位置づけというようなことについて、大変迷うところもあるし、今回教科書採択の検討を通じて考えさせられたところもあります。

簡単に言えば、子どもたちが生活面での自立を培うための第一歩という、実践的な教科であるということが大きいのだと思います。それと同時に、3年次から社会、理科、保健といった教科が始まるわけですから、そういった科目の共通の土台となっているというふうな側面もある。さらに、やはり同じ3年次から始まる総合的な学習と同様に、子どもたちの探求的な学習の舞台を用意するという側面もあるのかなということで、そういう多面的な事例を準備するというふうな、複合的な

教科かなというふうに受けとめております。

こうした事情に鑑みて、できるだけ豊かな体験活動ができたほうがいいかな。お仕着せにならないように、誘導的にならないようにということで、子どもたちの自発性とか、「なぜ」とかというのを大事にした教科書であってほしいなというふうに思いました。こういう点で教育出版のものがしっくりきたというところがございます。問いから始まり、単元末に何を感じたのかなという振り返りが来るというそのスタイルも好ましいと思いました。学びのポケットというところの、「見よう、考えよう、伝えよう」というのも、子どもの見方・考え方を引き出すという意味で、よくできているというふうに感じました。

ということで、教育出版を推させていただきます。

重ねて、ご意見、ご質問でございますでしょうか。小峰委員。

小峰委員) 今、3人の方が教育出版ということになって、私も別に教育出版が悪いということではなくて、先生方に授業を変えていただく一つのサゼスションになればいいかという気持ちだったんですが。

教育出版で、よかったなと思ったのは、下巻のほうで、手紙の書き方を丁寧に示していたんですね。手紙の書き方、封書にしる、はがきにしる、書き方は書写のところに出てくるんですけども、この前、中学生の半分が封書の表書きが書けない。先に名前を書いて、真ん中に住所を書いて、しかもメールアドレスを入れるというような、そんな書き方をしているというのを聞いたときに、今、はがきや封書で出す時代ではないにしても、やはり常識としてこういうものできないと困るので、低学年からこういうことを丁寧に教えることはいいことかなと思いましたので、教育出版に今回採択されるのであれば、やっぱりその辺のよさも先生方に見ていただきたいなというふうに思います。以上です。

教育長) 遠藤委員も教育出版でよろしいですか。

遠藤委員) はい。

教育長) ということであれば、大多数が教育出版を推したということが確認できましたので、生活の教科書につきましては、教育出版の教科書を採択することといたします。

それでは少し休憩をとりたいと思いますが、いかがでしょうか。それでは、あの時計で11時5分まで休憩といたします。

(休 憩)

(再 開)

教育長) それでは、休憩を閉じて会議を再開いたします。

次は、音楽ですね。では、事務局の説明をお願いいたします。

学校教育課指導主事) 各社の特徴を申し上げます。

教育出版。音楽づくりを学ぶ「音のスケッチ」では、表現の仕方が工夫できるよう、学び方の手順が例示されている。写真が豊富で、奏法や器楽の仕組みが丁寧

に示されたり、ダイナミックに表現されたりしている。

教育芸術社。見通しを持った学習ができるよう、巻末に「音楽の木」が掲載され、学びにつながる題材構成になっている。リズムの学習を常時活動として示し、授業で日常的に活用できるようにしている。

以上、2社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補が教育出版、第2候補は教育芸術社です。教育出版は学び方の手順、話し合い活動の進行の手順など、授業の方向性が示されており、児童にとって学びの見通しを持つことができる点などが評価されました。教育芸術社は、楽譜が見やすい点などが評価されました。以上です。

教 育 長) ご質問ございましたらお願いします。よろしいですか。

それでは、意見をお願いしたいと思います。遠藤委員。

遠 藤 委 員) 私は教育出版を推したいと思います。1年ずつ、毎年広い分野を学ぶこと、また、海外で活躍している名前を、よく聞く演奏家をたくさん紹介しているところがとても魅力だと思います。また、曲のイメージを理解するという点で、「われは海の子」や「もみじ」「サウンド オブ ミュージック」の紹介などでは、写真がとても美しく、曲の背景を理解するにもとても役立つと思いました。ほかにも、歌唱法やオーケストラの鑑賞法、ジャズなどの紹介も多彩で、音楽分野を自分が実践するだけでなく、幅広く鑑賞する楽しみ方についてもよくできていると思いましたので、教育出版を推したいと思います。以上です。

教 育 長) 小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私も教育出版です。今、遠藤委員が詳しく言っていたような、教材についても私もそのとおり賛成いたしますし、さっき指導主事のほうから、子どもについて学びの見通しが持ちやすいという意見もありましたけど、子どもの学びの見通しがつけやすいということは、先生方も指導しやすいということだと思います。音楽は、葉山の場合は専科の方がやることが多いでしょうけれども、そうじゃない教員にとっても、教育出版の教科書を使うんだっただけでできるか...できるかなという言い方はおかしいけども、やりやすい教科書かなということを思いました。紹介している曲数も多いように感じましたし、各ページの構成が大変丁寧に思いました。そういう点で教育出版です。

多分、教芸は編集に携わっている方たちのお名前を見ても、音楽を専門にされる方の手がたくさん入っているという点では、高度だとは思いますが。小学校で使う教科書としては教育出版が適当ではないかなと思いました。以上です。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私も教育出版を推したいと思います。まず、大きな特徴は、現代音楽を含めて多様な音楽を紹介しようという姿勢が明確にあるというふうに思いました。そういう意味で、特殊な音楽も紹介されている、その点も評価したいですね。

それに比べると、教育芸術社のほうは、やや技術偏重という言い過ぎですけども、きちんとした音楽のあり方とか、典型的なヨーロッパの古典、クラシック音楽ですが、あるいは日本の、東洋の伝統的な音楽についても、ある技術的な水準というのか、そういうもののあり方を意識して音楽のリソースを利用している教科書です。現在、音楽はやはり非常に多様であり、さまざまな形で世の中にあふれ出している点は、この教育出版の教科書を使ったほうが音楽のあり方に対してより柔軟な感受性が生まれると思って、この教育出版を推したいと思います。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴木委員) 私は教出、教芸、ほぼ差がない、ほぼ同じだなと。じゃあ、何でどちらかを選ぶとなったときにですね、やはり前回採択しているもののほうがいいのかと。差はもう全くないだろうというふうに思っています。でも、今言ったような理由で教出で。

教 育 長) 私ですけども、私は教育芸術社のほうを推したいというふうに思います。それぞれのよさがあるということもわかりますし、それから、音楽教育の系統性とか、子どもの自発性を育てようというふうなところに関して、どちらもそれなりに意を用いていること、十分わかりますので、そういう意味では教出の推薦もあるかなと思いますけれども、一方で、やっぱり音楽教育に向かうある種の姿勢みたいなものについて、対照的なところがあるかなというふうに感じました。

最初に教育出版のほうに関して言いますと、まず、「音楽のおくりもの」という題からして、非常に気に入りました。そもそもリズムから始まって音楽学習の6年間を俯瞰するような、系統的な積み上げというのがありまして、ずっと6冊通して見ていって楽しいですね。ああ、なるほど、自分で勉強できるなとよくわかりました。また、見方を、視点を変えますと、中等教育で確かダンスが必修化されていますけれども、そういったことを意識して見てみますと、身ぶり手ぶりといった身体能力に結びつくようなことをしっかり意識しているという点でも、教育出版にするべきかなと思いました。たまたま見ておもしろかったのは、3年生かな。拍と指揮、特筆されたページになっておりまして、今まで述べたこととの関連で、いい導入の仕方だなということを感じました。なるほど、全体を通して、音楽を教える先生方にとって扱いやすい教科書だなということが非常によくわかります。

その一方で、教芸のほうに関して言いますと、これは音楽教育に内在した、今言ったような側面以外に、周辺的な話題とか状況について、いろんな配慮があるのかな、そういうものを積極的に取り上げようとしているのかなと思いました。それは結局、音楽専門家の方々が持っている音楽教育、あるいは音楽そのものの愛好者の底辺を拡大したいとか、裾野を広げたいとかといったような意欲を強く意識した教科書なんじゃないかなというふうにとれたからです。防災復興の話が大きく取り上げているとか、あるいは防災との関連で、仙台フィルのバイオリニストの神谷さ

んをフィーチャーするとか、そういったこともそんなあらわれだと思いますし、それから、あえてメジャーオーケストラじゃなくて、北海道や九州のオーケストラの写真を使ったりするようなところも、やはりそうした、全国的に裾野を広げたいということの間接的な表明かなというふうに受け取りました。

そういうところに私として非常に共感を覚えて、教芸のほうを推したいというふうに考えたところでございます。

何か皆さん重ねてご意見がありましたらお願いします。

特になければ、4名の方が教育出版を推されていますので、音楽の教科書については教育出版で今年は採択することといたします。

続きまして、図画工作に移ります。事務局の説明をお願いします。

学校教育課指導主事) 各社の特徴といたしましては、開隆堂、全学年「きらめきコーナー」というページがあり、身近な材料でできる造形活動が、つくり方とともに紹介されており、家庭でも実践できる。使用する材料や用具が絵や文字で説明されており、見やすい。

日本文教出版。全ての題材の最後に「気をつけよう」と「片づけ」の欄があり、児童が安全面や片づけへの意識づけができるように工夫されている。「ひらめきポケット」があり、各学年のテーマに沿って思考を広げるページになっている。

以上、2社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補が開隆堂、第2候補は日本文教出版です。開隆堂は、新学習指導要領でも取り上げられている造形活動の膨らませ方がすぐれている点などが評価されました。日本文教出版は、全体的なバランスが整っている点などが評価されました。以上です。

教 育 長) 説明に対するご質問ございますか。

ないようでしたら、意見を伺いたいと思います。遠藤委員からお願いします。

遠 藤 委 員) 私は開隆堂を推したいと思います。準備物がわかりやすく、目当てが何々しようという提案型の文言が使われています。また、QRコードの扱いとして、こちらに関しては自宅学習を積極的に勧めるものではないということでしたが、多くの資料をQRコードを使って、家でも見れるということはとても魅力的に感じました。先日、町内の中学校の授業を視察した際に、映像技術の授業の際、PCルームのパソコンを使って同年代の優秀作品や、世界中のいい作品を調べ学習するような授業も見られましたので、多くの作品に触れるという点で、このQRコードもまた開隆堂を推薦したい理由です。以上です。

教 育 長) 小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私も開隆堂です。何か発想を膨らませられるというか、やってみたいな、自分ならこうしてみようという意図が見える教科書だなというふうに思いました。

それに対して日本文も、いいところもたくさんあるんですけども、何となく平面的な構成の教科書に、私には感じられました。開隆堂のほうが大小インパクトの強

いような画面構成だったり、それから、何ていうんでしょうかね、子どもが、これでもいいかな、こっちもやってみようかなというように、視点の移せたりできるような画面構成になっている点、子どもの創作意欲を引き立てる教科書になっているのではないかなと思いました。いろいろな道具の使い方ですとか、そういうものについては日文のほうがやや丁寧かなと思いましたけれど、余りにもそのことを重視してしまうと、それは教師が指導する際にやればいいことかなということも考えた結果、やはり子どもの発想を促すような教科書ということで、開隆堂を推したいと思います。以上です。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私も開隆堂を推したいというふうに思っています。日文の教科書と比較すると、日文は非常に手堅く、きちんとまとまっている教科書です。恐らく教科書の質も使い勝手もいいのではないかと思います。信頼性は十分にあると評価できます。

それと比べたときの開隆堂の一番大きな特徴は、何か、造形活動をすることで、スケール感をきっちり示している。教室だけでやることではないということ、この教科書は確実に意識していて、パブリックなスペースにある造形物への関心を促し、あるいは、その中の一つに美術館があるわけですけれども、教室の外で出会う造形や美術、新たな美意識、表現、可能性、そういうものへと道筋をつけてくれているというのは、やはりこの現代社会の美術が激しく変化していることに対して、子どもたちに喜んでそれに気づかせるような、促しを秘めている教科書というふうに、比較すると開隆堂の性格は明確にあると思いました。その意味で開隆堂のほうの、やや未来に向けた積極的な姿勢ということで、開隆堂の教科書を選びたいと思います。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 私も音楽と同じように、この開隆堂と日文、ほとんど自分の頭の中では差がないなというふうに思っています。ただ、子どもたちの使いやすさだけを捉えて考えると、日文じゃないかなという感じがしているので、私は日文で。

教 育 長) 私は、開隆堂を推したいと思います。皆さんがお感じになられたのと同じように、両者の間に何か決定的に大きな差を見出すことはできませんでした。どちらも1年生から6年生までを通して拝見して、非常に楽しいですね。音楽の教科書もそうだけれど、まず第1点そんな感じです。

その中であえて開隆堂を推すとすれば、例えば単元ごとの学習の目当て、振り返りが、つくり方、見やすさの点で、明快であるとか、その照応がいいとか、それから、あとは、やはり写真のようなものを拝見しながら思ったんですけれども、低学年でも触感とか手ざわりを重視して、そこから造形に進むような流れというのが随所に出ています。また、中学年では、遊び道具やおもちゃから、技術工芸的なものに発展する流れというものが、よくつくられているというふうに思います。全体と

して子どもたちが興味を持って取り組みやすい学習内容になっていると感じました。道具や工具の使い方についての説明も丁寧だったと思いますので、開隆堂を推させていただきます。

何か重ねてご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、図画工作につきましては開隆堂が過半数になりましたので、今年度は開隆堂の教科書を採択するという事にいたします。

では、続きまして、種目家庭に移りたいと思います。事務局、説明をお願いします。

学校教育課指導主事) 各社共通いたしまして、新学習指導要領に準拠していること、基礎的・基本的事項を適切に取り上げられていること、ICT機器を活用する場面、情報活用能力を育成する内容が取り上げられている点が共通しておりました。

次に、各社の特徴としましては、東京書籍。A4判で大きく見やすい。また、開いた状態を維持しやすいようになっている。振り返りを通して、生活に生かすことを意図した構成になっている。

開隆堂。振り返りで児童が日常生活を想起しやすい場面設定がされている。行事など、学校の実態に応じて組みかえがしやすい単元配列になっている。

以上、2社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補が東京書籍、第2候補が開隆堂です。東京書籍は調理や裁縫の見本が実寸大の写真で掲載され、現代の子どもたちの生活体験の差に配慮されている点が評価されました。開隆堂は、子どもが想起しやすい場面が設定されている点や、子どもの写真が掲載されている点などが評価されました。以上です。

教 育 長) ご質問ございますか。

それでは、意見に移りたいと思います。遠藤委員からお願いします。

遠 藤 委 員) 東京書籍を推したいと思います。このサイズが見やすく、先ほども挙がっていましたが、調理の手順などが非常に見やすく、教室の中でこの教科書で完結するかと思います。

開隆堂のQRコードによる動画指導、本当に、非常に魅力なんですけれども、まだ教室でQRを使うハード面の環境が整っていないということで、今回は東書を推しましたが、やはり縫い物の紹介などはなかなか先生の手元を一人ひとりが見づらいということで、今後こういった指導も葉山で進んで、QRを使った指導も進んでいくといいなという希望もちょっと持っております。ただ、今回に関しましては、教科書で全てが完結する、そして調理の手順などが見やすいというところから東京書籍を推したいと思います。以上です。

教 育 長) 小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私も遠藤委員と同じ、東京書籍を推したいと思いました。まず一つは、右きき・左きき、先ほどの書写のときもあったんですけれども、右ききの子、左ききの子に

も配慮した包丁の持ち方など、それから運針の仕方などに配慮している点は、大変いいなと思いました。それから、A4判で大きくて、実物大に、その作業がわかるような写真も非常に印象的でした。

手順がはっきりしているという点で東京書籍のほうがすぐれているかなということをおもいましたが、2社でしたから、そんなに差を大きく感じたわけではないんですが、最終的に決めたところは、先ほどの左きき、右ききのところかなと思います。東京書籍です。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) とともに、コンテンツの差はほとんどないという印象です。やはり、どういうふう
に紙面においてプレゼンテーションできているかというので、使いやすさ、わかりやすさ、そういう点でお互いに比較すると、東京書籍のほうやはり使いやすいと思いました。でも、今後恐らくQRコードで動画などを見ないと非常にわかりにくい、あるいは、糸をかがってくるなんか、本当は3Dでないかわからないとか、今後いろいろなことを試みなければいけない要素としてはあると思うのですけれども、それはおのずと進化していくことになるでしょう。

ただ、現時点で2つを比較するならば、やはり東書のほうの具体例がより豊富で、ある意味誤解の余地なくそれを使いこなしている東書のほうを選びたいと思います。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 私は開隆堂がいいかなと思います。全体的な分量というんですか、配分感覚からいって、こちらのほうが子どもが使いやすいんじゃないかなというふうに思いました。

それから、水沢委員もこれに触れたんですけど、このQRコードの問題は大事なんだろうと思っているのと、家庭へ帰ればできないことはないのですね、家庭科の場合、家でということも考えられるので、私は開隆堂にしたいと。

教 育 長) 私は東京書籍を推します。両者ともに基礎的な知識の修得については大変よくつくられているというふうに私は考えています。

一つの決め手というのは、指導主事の説明にもありましたけれども、東書の方について言えば、A4サイズであり、実寸大ぐらいの、あるいはそれに近いような大きな写真が多く掲載されています。障害のある子どもたちに対してだけではなくて、台所や裁縫等になじみのない今どきの子どもたちに対する配慮というものも十分にうかがえた。生活をよりよくつくり変えていくための、実生活に還元できるような技能習得という面で見ても、いろいろなことを、子どもが自分で納得できるのがいいなと思うのですけれども、手順等非常にわかりやすかったと思っております。

1つだけ注文をつければ、単元ごとの目当てについてはいわゆる作業課題的な水準であって、もう少し工夫があってもいいんじゃないかということも感じました。ちなみに、伝統文化のところ、お茶をいれるプロセスが大変おもしろかったとい

うことを追加します。

以上、東京書籍を推したいと思います。

特に、再度意見ございますか。よろしいですか。

それでは、家庭科につきましては東京書籍を推す意見が過半数を占めましたので、家庭の教科書は東京書籍にしたいと思います。こちらの教科書を採択いたします。

続きまして、種目保健に移ります。事務局の説明をお願いします。

学校教育課指導主事) お願いします。各社の特徴を申し上げます。

東京書籍。授業の流れをつかみやすく、見通しを持って進めることができる。記述欄が多く、授業内容を整理...学習内容を整理したり、振り返りがしやすい。

大日本図書。保健室の先生やスクールカウンセラーを登場させ、児童が興味を持って学習できるように工夫されている。SNSやがんについての資料など、現代的な課題が取り上げられている。

文教社。イラストで具体的な例示が示されており、わかりやすい。理解を深めるために大切な言葉を太字にしたり、まとめの文章を枠囲みで表示している。

光文書院。他教科との関連性が高く、「科学の扉」では学習内容の理解を深めるような科学的資料が多数掲載されている。特別な支援が必要な児童への配慮された内容構成やデザインとなっている。

学研教育みらい。他教科との関連性が高く、「科学の目」では学習内容の理解を深めるような科学的資料が多数掲載されている。将来の職業選択につながる話など、意欲を高めるための工夫が見られる。

以上、5社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補が光文書院、第2候補は学研教育みらいです。光文書院は、科学的な資料が多く掲載されている点や、特別な支援が必要な児童のための配慮がすぐれている点が評価されました。学研教育みらいは、科学的な資料が多く掲載されている点や、キャリア教育の視点がすぐれている点が評価されました。以上です。

教 育 長) ご質問があれば伺います。よろしいですか。

それでは意見を伺ってまいります。遠藤委員からお願いいたします。

遠 藤 委 員) 学研教育みらいも光文も、総合的・科学的という観点において、どちらも本当に甲乙つけがたいと思いました。どちらも説明の根拠をよく示していて、総合的という意味では、教科横断という点だけではなくて、高学年も納得するような、そして関心を高めるような内容だったかと思います。

その中で私は学研教育みらいを推したいと思います。なぜかといいますと、レイアウトがすっきりしていて、セルフチェックをする項目が多岐にわたっていたのがとてもよかったかと思います。どちらも科学に関する記載は多かったですが、特に理解の「科学の目」では、理解の関心を高める内容がよかったかと思いました。

この2点から学研教育みらいを推したいと思います。以上です。

教 育 長) 学研を推すということですね。小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私も学研です。保健の教科書、もう突き詰めて言えばそんなに差はないかなと思いましたが、あえて学研の、私がよかったなという点は、5、6年生の心の健康の単元の中に、不安や悩みへの対処という欄があって、そこに体のリラックスと心のリラックスの関係や、体をリラックスさせる方法、それから、思春期には誰でも悩むものといった、そういうページがあったということは、5、6年生の子どもたちにとって、大変有益なページではなかったかなと思います。ぜひ先生方がそこに触れて子どもたちを指導してもらえるといい内容でした。

それから、私たちと一緒に学んでいきたいと思いますというところに、担任の先生とか保健の先生とか、スクールカウンセラー、校医さん、それから町の消防団の人、警察の人などの名前が挙がっていて、みんなの健康を守るためにいろいろな仕事があるんだというところを、そういうふうに入を登場させることによって子どもたちに知らせるといのは大変重要なことだなと思いました。

それともう一つ、自然災害や緊急事態に備えてというところで、緊急時の警報を出してくれるところがどういうところなのかというところが載っていたのも大変丁寧だと思いました。

そういう点で、どの会社も、差をつけるのは大変難しかったですけども、私の気に入ったページというか、こういうところがうまく活用できると本当に役に立つなと思ったページがありましたので、学研を推したいと思います。

教 育 長) では、水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私も甲乙はつけられないなと思っておりますが、光文書院のほうが、他教科の科学的な視点を、より一層促しているかという印象です。

それとあと、インクルーシブな発想で、やはり特別支援が必要な生徒への配慮がある教科書というのは良いモデルになるのではないかと思います。その部分を評価して光文のほうを推したいと思います。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 私はですね、大日本、光文、学研、この3社のもので最後まで迷っていたんですけども、最終的な決定打はですね、子どもたちが見て、理解しやすい工夫がどれが一番いいだろうかなと思って、最終的に光文で。

教 育 長) 私も光文書院を推したいと思います。今回5社出品されておりますが、保健に関してはすごく字数が少ないということもあり、指導要領上決まった内容ということもありますので、内容的にはおおむね差がないというふうに思いました。

とはいえ、これは小学校だからというわけではなくて、自分が高等学校に所属していたときのことを思い出すと、何か保健の扱われ方が軽いなということ、反省の念とともに思い出します。とても大事な科目なのに、いわば、体育の附属品みた

いに扱われているやり方はよくない。授業の仕方もそういう位置づけというか、受けとめ方と並行して、本当に十分に練り込まれていないものが多かったということ強く記憶しています。小学校でなかなか保健をやっている場面を、実際に視察で見ることが余りないので、そういう実感で語ることはできないんですけども、そのことに鑑みて、やはり子どもたちが本当に生活をする上で、みずから身を守る力をつけるというふうな意味で大切な科目だろうし、そういう意味で、短い時間だけれども、いろんなことを覚え込むということよりも、実際に即して、みずからの問題として感じられるようなつくり方をしてほしいと思っています。

そういうことを考えながら拝見させていただきまして、光文書院に関しては単元ごとの学習課題の設定とか、単元ごとの4コマ漫画による導入とか、あるいは対話的な学びの設定とか、そういったさまざまな工夫に注目できました。また、目次の直下のところに、それぞれ上下巻の予告と振り返りがあるのもいいというふうに思います。

それから、最後に、これは自分の中で非常に重かったんですけども、やはり、かつて高等学校に所属をしていたときに、FTMの生徒からカミングアウトを受けました。全校的にこのカミングアウトを取り上げました。そのことが私には非常に強く記憶に残っていて、性的マイノリティーということに関しては、どんどん積極的に取り組んでほしいし、重視してほしいというふうに思っています。そういう点でもしっかり取り上げてくれたのではないかとということも思いました。

さまざまな人々の共生社会という考え方に向けた配慮もされていたと考えまして、光文書院を推したいと思います。

一通り意見の表明が終わりましたが、重ねて何か最後に意見等ございましたでしょうか。よろしいですか。

それでは、保健につきましては光文書院の方が3名で過半数を占めましたので、保健の教科書につきましては光文書院を採択することにいたします。

続きまして、種目外国語に行きたいと思います。事務局、説明をお願いします。
学校教育課指導主事) 各社共通の特徴としましては、聞くこと・話すことの音声から、読むこと・書くことの文字へという学習の流れになっていました。また、各教科とのつながりが強調されていました。

各社の特徴を申し上げます。東京書籍。現在外国語活動で使用している教材に類似しており、児童が使用しやすい。別冊にピクチャーディクショナリーがあり、持ち運びしやすいようになっている。

開隆堂。1時間に1ページの構成となっている。また、Can Do マップが掲載されている。オリンピックなど、今の話題を取り扱っている。また、道案内の学習では、プログラミング学習の視点が取り入れられている。

学校図書。1時間、見開き1ページの構成である。また、単元の最初に目標が

示されている。児童の学習の流れが十分に配慮されており、特に書くことについては最低限にとどめている。

三省堂。実生活との関連が図りやすい教材が取り扱われている。「チャンス」は「音に親しむ」、「言葉を覚える」の2種類用意されている。

教育出版。特に聞くこと、話すことに重点が置かれている。振り返りの設定が適切で、どんなことを学習したか、振り返る設定が適切である。現在、外国語活動で使用している教材に類似しており、児童が使用しやすい。

光村図書。同世代の子どもや、世界で活躍する日本人が取り上げられている。巻末に絵辞典があり、授業でも活用ができる。

啓林館。巻末にワードリスト、Can Do リストがあり、授業で活用できる。他社に比べ、書く活動にも重点が置かれている。

以上、7社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補が教育出版、第2候補は東京書籍です。教育出版は、現在外国語活動で使用している副教材に近く、違和感がない点。継続性によって、子どもたちの負担感が少ない点が評価されました。東京書籍も、現在外国語活動で使用している副教材に近く、ピクチャーカードが使いやすい点なども評価されました。以上です。

教 育 長) ご質問ございましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは、遠藤委員からご意見を承ります。

遠 藤 委 員) 私は教育出版を推したいと思います。初めての外国語の教科書ということで、何が求められているかなど、いろいろ考察しました。外国語の小学校の授業を視察したり、あと、小学校時代に英語の初学者であった我が子を通じた目線を感じたりする中で、やはり何がハードルかということを感じたときに、人前で発音するのが恥ずかしい、先生が何を言っているかわからない、正しい答えが自信がないということがハードルだと感じました。そんな子どもたちが楽しみながらわかることを実感し、そして、英語が身近にたくさんあるということも実感してほしいなと感じ、そこからやはり人に道を教えたりと、オリンピック・パラリンピックを通じて、日本を伝えることということも楽しんでほしいなという観点から教科書を見るようになりました。

今回全ての教科書を目にしたときに、やはり中学の教科書を少し早めて学習する内容になっているというものと、あと、この楽しみながら聞ける、わかる、知るということに力点を置いた、教科書と少し分かれるかなということを感じました。そんな中で、この東京書籍と教育出版は、やはり英語を学ぶというよりも、英語をツールとして考えるという視点が多く、私も評価できると感じました。

東京書籍のよさとしましては、やはり今使っているというところと関連性が多いですし、教科横断、家庭科で特に社会の関心も高めるような内容かと思います。あと、内容の中で英作文を後段練習したり、スピーチの練習をしたりというところ

も、余りハードルが高くなく組み込まれており、これから英検を取得しようということを考える子たちも低年齢化することも考えると、そういった対策にもつながるいいことだと思いました。中学への学びの前段階で単語帳が別冊になっているということも、とても魅力だったと思います。

そんな中でも教育出版を選んだ理由としまして、ページで言いますと5年生の、例えば19ページの「キーボードのアルファベットで名前をタッチしてみよう」ですとか、87ページの「アクティビティーでレストランのロールプレイをしよう」なんていうところでは、とてもゲーム性が高く、体を動かすワードが多く、授業が楽しく進行していくのがとてもイメージしやすく、子どもたちが、わかる、役に立つということを楽しみながら学べる様子が目に浮かんできました。初学者でも失敗をおそれずに取り組める内容がとても魅力だと思いましたので、私は教育出版の教科書を推したいと思います。以上です。

教 育 長) 小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 私は正直言って、今小学校で行われている外国語、あるいは外国につながるような授業のイメージがなかなか具体的に持てませんでした。授業を見る回数も少なかったのも、先生方がどういう指導を目指しているのかなというところが、捉えられなくて、迷いました。

今、遠藤委員がおっしゃったように、教科書は、大きく分けて、読む、書くが割合重視されている教科書と、それから、聞く、話すをメインにする教科書と、2つぐらいに分かれるかなという感覚で見えていました。今、指導主事のお話も聞きましたし、遠藤委員の意見も伺って、やっぱり私は今の教科書に近いということは、先生方もこれから目指していく外国語は、今の使っている「We Can!」でしたっけ、それに近いものを求めていらっしゃるんだなということを感じましたので、私もそういうところから2つ、教育出版と東書に絞って、今、どちらにしようかと、大急ぎで考えているところなんです。私は、教科書を見たときに、活動をあまり盛り過ぎないでシンプルに紙面が構成されている点では、教育出版がいいかなというふうに思います。特に、遠藤委員がおっしゃった、キーボードを使った活動とか、日本地図を大きく使って、名所とか名物を言葉で表現したりする、そういうマップを活用するのも大変おもしろいなと思いました。東京書籍の別冊になった辞書、あれも魅力的なので、直前まで悩んでいました。けれども、今、指導主事のお話を聞いたことも含めて、教育出版にしたいと思います。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 初めての外国語の教科書ですよ。そのときに、教科書全体として、そういう外国の雰囲気というか、空気というか、それがより近く、身近に感じられるように工夫されているというのは、すごく大事なポイントだろうなと思っていますが、両者そんな差がないと思いました。ただ、その点に絞っても、教育出版か東京書籍か、

甲乙はあまりないように思います。教育出版のほうが具体的な導きが多いですね。

そういう点で、初めて外国語に出会い、ワードをより丁寧に指導する、ツールとして使いやすいという点で教育出版のほうを一番に推したいと思います。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴 木 委 員) 外国語についてはね、皆さんの意見が正しいんじゃないかと思っていて、ただ、いろいろ見ていると、やっぱり英語ができるというよりも、話せるのはできるという人が多いんですけど、授業で僕は採用する場合にはね、読めて、書けて、話せなきゃだめだ。そういう観点で捉えると、僕は東書のほうがいいんじゃないかなと思っているんですね。もちろん話せることは絶対条件なんですけど、私の知り合いでも、話せるんだけど、読めるんだけど、書けないというのが結構いたり。留学した人で割と書けない人って結構多くてね、読めるんだけど、しゃべれるんだけど書けないということを見ると、やはりバランス考えるとですね、僕は東書のほうがいいんじゃないかなというふうに思っていて、ちょっと専門家の遠藤さんとちょっと意見は分かれるんですけど、僕は東書。

教 育 長) では、私から。私は教育出版を推したいと思います。私は、鈴木委員と違って、本当に会話から英語を学んだ記憶がないので、読むことはあまり苦痛じゃないんですけども、話すことは非常に苦手です。それは今どきの子どもたちをこれから指導していこうという意味では、あまりよろしくないというふうなことを自分では反省しています。そんなことも含めて、教育出版にしたいと思いました。

冒頭の国語のところでも触れた全国学力状況調査結果を見ますと、中学校の英語について、比較的良好な結果を得た自治体では、小学校の段階で聞く、話すというふうな活動の単元を積み重ねてきたことがこういう結果を生んだんじゃないかと。まだ1回しかやってませんけれど、そういうふうなことを報告されています。やはり、聞く、話すというようなところから、読む、書くと、次第に発展するというふうな、そういう教育の仕方がいいんじゃないのかと思いました。

教育出版はこうした点で、各単元でペアとかグループで取り組むコミュニケーション活動や、アクティビティーを設け、その中でも聞くことを重視しています。さらに、写真や絵が充実しているという面で、小峰委員がおっしゃっていたように、行ってみたい都道府県とか、そういう教科横断的既習事項を英語で学んで、興味・関心をかき立てるような工夫もあったと思います。そんなふうに、子どもが入っていきやすい教科書かなと思いました。

最後に、指導主事を通じて調査員の報告を伺ったわけですけども、今使っている教科教材をしっかり引き継いでいるというふうな点でも、教員にとって指導しやすい、子どもたちにとって学びやすい教科書かなと思います。初めての教科化ということでございますので、そのことに鑑みて、使いやすさという観点も十分考慮すべきと思いました。その点で現場の教員の支持が厚いのも当然だと思いますので、

教育出版にしたいと思います。

何か、もう一度意見を言いたいとかございますか。

なければ、4名の方が教育出版を推されましたので、外国語につきましては教育出版の教科書を採択することといたします。

では、続きまして、最後の種目になります。特別の教科 道徳につきまして、事務局から説明をお願いします。

学校教育課指導主事) 各社の特徴を申し上げます。

東京書籍。系統性が強く意図されており、次の年や中学校につながるページが掲載されている。巻末に情報モラル教育の内容が掲載されており、授業で活用が図れる。

学校図書。冊子が「気づき」と「学び」の2冊に分かれている。「気づき」は読み物等の資料のみ、「学び」は発問例や児童が記述する欄がある。巻末に学びのヒント、学習の取り組み方、話し合いの仕方が例示されている。

教育出版。他教科との関連が充実している。体験的学習が多く取り入れられている。

光村図書。目次が3つの学期に分かれており、葉山にとって使いやすい。体験的学習が多く取り入れられている。

日本文教出版。問題解決的な学習、体験的な学習のための学びの手引きが示されている。教材の最初に人物紹介がされている。また、それぞれの教材に発問が明記されている。

光文書院。巻頭に教科書や付属のノートの使い方が示されている。なじみのない言葉には補足説明が添えられている。

学研教育みらい。体験的な活動が充実している。情報モラルについて多く取り扱われている。

あかつき。情報モラルについてのコラムがある。ノートが付属されている。

以上、8社の中で採択検討委員会の候補となったものは、第1候補が光村図書、第2候補は日本文教出版と学校図書です。光村図書は体験的学習が多く取り入れられている点や、さらには道徳が教科化されてからまだ2年しかたっていない点から、継続性も評価されました。日本文教出版は問題解決的な学習、体験的な学習のため、学びの手引きが示されている点が評価されました。学校図書は、巻末に学びのヒントがあること、また「保護者の方へ」という欄があり、家庭との連携が意図されている点などが評価されました。以上です。

教 育 長) ご質問ございますか。よろしいですか。

それでは、意見に移りたいと思います。遠藤委員からお願いします。

遠 藤 委 員) 私は光村を推したいと思います。ちょうど2年前に道徳のこういう話し合いをした際に、最終候補だったのが光村と日文だったかと思いますが、その際はまだ道徳

の授業は先生がなれていないのではないのではいうことで、光村の良質な題材と共に、日文の丁寧な別冊も評価されました。ただ、その後、外部講師などのアドバイスや研究授業が進展していく中で、今、葉山の小学校では、生徒と先生による発案というか、発問づくりや、あとノートづくりということが大分進んでいるので、そういう、教科書が何か誘導していくようなものは全く必要なく、むしろいい題材が必要だということで報告を受けております。また、先ほどありましたが、継続性ということで、2年間だと光村という、教科書自体に学校が慣れて、一応教材研究も進んでいるということで、それで今回は変更なく、光村を推したいと思います。以上です。

教 育 長) 小峰委員、お願いします。

小 峰 委 員) 自分の中に決定までに紆余曲折がありました。前回採択のとき、東京書籍を推したと思います。というのは、問いかけがシンプルで、大変好ましいと思いましたが、今回の教科書では、どちらかというと光村、それから東京書籍が大変似たづくり...発問の仕方になっていると思いました。東京書籍も複数の発問がつくようになりました。その点、学校図書は分冊にはなっているんですけども、この本編は読み物だけ、それから付録のほうも非常にシンプルな問いが2つ載るだけなんです。

そういう使い方もいいかなというふうに思って、教科書としては学校図書が私は一番自分の好みに合って、使ってほしい教科書だと思いましたが、今、指導主事のお話にありましたように、まだ光村の教科書を使って2年しかたっていないということ。継続性を考えたら、今年もじゃあ、この段階でもう一度光村を使って、先生方にさらに勉強を深めていただくというのも大事ななと思いましたので、そういう点で光村をこのまま使っていただきたいというふうに考えています。

教 育 長) 水沢委員、お願いします。

水 沢 委 員) 私も光村を推したいというふうに思っております。まず、内容的に非常にしっかり、温暖化の問題を取り上げるなど、内容も工夫してあります。やっぱり、この道徳というのは、人間としてよりよい生き方を自覚させるというふうに、あまりにも道徳律の話だけではなくて、環境問題なんかも、周囲との関係性に対する意識を持つという促しは、もう絶対不可欠だと思いました。光村図書にはそういうコンテンツが入っている。つまり、インクルーシブであるとか、SDGsですとか、そういうことをしっかり意識しましょうという内容を備えているという点が高得点の理由です。

あとは、光村図書の特徴ですけれども、見やすく視覚に訴える。そういう、ビジュアルな魅力を持っているのです。道徳というと普通は魅力ないというふうに思うものを、魅力のあるものというふうにプレゼンできている教科書の姿は魅力的だと思っていて、光村を推したいと思います。

教 育 長) 鈴木委員、お願いします。

鈴木委員) 2年前の道徳のときも私、皆さんに多分申し上げたと思うんだけど、もちろん、各教科書全部なんです、教師の資質といいですかね、教師の技量が問われるのは何かと知っているんですが、特にこの道徳がね、やっぱり教師の考え方というかな、そういうものを入れていくものの難しさが一番ある教科書ではないかなと。

視察でこの2年間見ててね、やっぱり各学校、皆さんかなり研究をしてね、道徳をどういうふうに授業でやろうかという、この光村の教科書をもとに随分検討しておられたなということを感じて、授業自体非常によくなって、いいなと思ったところがあるんで、今は光村は変えるべきじゃないんじゃないかなと思いましたので、光村に。

教育長) さらに私から申し添えます。私も光村図書出版を推したいと思います。一昨年、大変長い時間をかけて議論したことをよく覚えています。また、昨年も中学校の道徳で同様に議論をいたしました。一昨年のことを振り返りますと、ありとあらゆる側面にわたってこの社がいいとかというふうなことを話した記憶はありません。いろんな社の道徳教科書について、それなりに工夫したポイントがいろいろ発見できたと思っています。

先ほど小峰委員の話を聞いていて、別冊であったとしてもいいものがないのかとか、そういうことも随分議論したことを覚えていますし、別冊によって誘導的であることになるんじゃないかという危惧をしたこともありました。道徳という教科の、存在意義みたいなことが社会的に随分議論されているという背景もありまして、各社なりにそういうことにどう向き合うのかという工夫を凝らしたことが、私たちの議論にも反映していて、長い時間かけて議論することにつながったということも覚えています。

例えば、学校図書では、各学年の巻末にある「保護者の方へ、この教科書が目指すこと」、あれはすごく心に響くというんですか、そういうものもあったし、それから、別冊ノートの、何ていうか、学びの深め方にかかわるのかな、内容的にこちらのほうがいいというのも、いろいろあったんです。いろいろありましたけれども、結論として光村を推す一つの理由は、これは教科書に内在しない理由ですけども、やはり特別な教科として生まれてからいまだ1年数カ月しかたっていない現時点では、要するに実践による必要十分な検証が行われていないというふうに言わざるを得ないと思います。また、この教科書について、葉山町の現場から特段大きな、否定的な意見が聞こえてくるわけでもありません。それから、また、今回の教科書についても大幅な変更があったとは思えません。2年前の自分のメモを見て、あのときこの教材がいいなと思ったものは、基本的にみんな今回も載っていましたので、そういう意味では、特段変える理由はないし、変えること自体がやはり少し乱暴なんじゃないかならうかと。もう少しじっくり時間をかけて検証したいということが1つです。

それからもう一つ、内容的な面では、2年前の話の要約になりますけれど、あ
のとき大きく2つ挙げたと思います。1つは、子どもたちの身近な状況を取り上げ
たものとか、あるいは明確な結論をできるだけ押しつけずに、意見の多様性とか、
考える余地とかを担保しているもの、さらに結末に含みを残すというか、余韻を感
じさせるような、そういう配慮がうかがわれるものをできるだけ多く取り上げたい
なというふうに思っています。

それから、発問も、先ほど小峰委員がおっしゃったように、できるだけ誘導的
にならないようにというか、自分自身の中で悩みながら試行錯誤していけるような
ものもいいんじゃないかなというように思いました。そういう点でも、子
どもたちにとって使いやすい教科書かなというふうに思っています。

それからもう一つは、これは私しか言わなかったように思いますが、6
年生を筆頭に、人権というのを道徳に含めて考える姿勢というのが、ほかの教科書
より際立っているように思います。要は、道徳という非常に広大な裾野をもつ山の
頂点のあるエッジの部分に人権というのは成立すると、私はそういうふうに思っ
ているんですけれども、そういう考え方に近いものが出されているように思います。

「世界人権宣言から学ぼう」というようなページがあったり、自尊感情の大切性を
強く訴える読み物があったり、あるいは、キング牧師の「I Have a Dr
eam」という話を挟みながら、最後はアサーションなんかも付録に入れているん
です。こういったことが一つの一貫した姿勢を示しているのではないかというこ
とを、依然として評価できるというふうに思っております。

そういう意味で光村を推させていただきますが、また、くどいようだけれ
ども、やっぱり学図の、最後の「目指す子ども像」のページ、本当に興味深いな
と思っています。実は、道徳の教科書だけではなくて、どの教科書も同じ事をする
べきんじゃないかと、個人的には思っているんです。自社の教科書が、この種目
を通じて、それぞれの学年の中で何を目指しているのかということをやっぱり鮮明に
すべきことなんじゃないかなと、考えています。改めて付言させてい
ただきます。継続して、光村図書を推します。

ということで、特別の教科 道徳につきましては、これは全員一致ということ
になりますので、光村の教科書を採択いたします。

それでは、13 種目全て終わりましたので、これまでの審議により、採択した教
科用図書を確認したいと思います。事務局、お願いします。

学校教育課指導主事) 順に申し上げます。国語、光村図書。書写、東京書籍。社会、教育出版。地図、
帝国書院。算数、学校図書。理科、大日本図書。生活、教育出版。音楽、教育出
版。図画工作、開隆堂。家庭、東京書籍。保健、光文書院。外国語、教育出版。
特別の教科 道徳、光村図書。以上です。

教 育 長) 今、事務局から 13 種目の教科用図書の確認がございましたけれども、間違いございませんでしょうか。

それでは、以上で小学校使用教科用図書について、全ての採択を終了いたしました。

続きまして、学校教育法附則第 9 条本についてですけれども、事務局から説明をお願いします。

学校教育課指導主事) いわゆる、9 条本に関することについては、今回各小学校からの希望は出ておりません。以上です。

教 育 長) そういふことですので、附則 9 条本につきましては今回は審議しないということで行きたいと思ひます。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして日程第 1 「議案第 11 号令和 2 年度使用小学校教科用図書の採択について」を終了いたします。

(閉会宣言)

教 育 長) 本日の日程は全て終了いたしました。これにて閉会といたします。
時刻は 12 時 1 分です。お疲れさまでした。